明治二十一年六月十五日發兌

逓信省認可

以良都女

第十二號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十二號目次

社説。男女交際論。

小説。空行く月（第四回）。

家政。人工の片輪＝小兒を素直にする法＝小兒癇（ヒキツケ）の話（醫學士竹中成憲口述）＝急病療法。

流行。繻珍の帶＝スキヤ＝十一二歳より十四五歳までの少女の下衣＝若き貴婦人の夏衣＝扇＝婦人洋服直段付。

化粧。手の色を白く滑にする法＝日に燒ける手を白くする法

批評。浮雲（承前）＝明治之細君＝高崎男爵新作かざしの菊＝物集高見氏新作水の江。

文藝美術。和歌數首＝第十回金蘭會唱歌＝唱歌モードムラル。＝新曲宮城曲。

學藝。蠅の話。

講義。用器畫稽古法。

寄書。束髪詳論（承前）。

月報。數十件＝女學雜誌寄書欄內「いらつめの批評の評の批評。

餘興。新題謎四＝前號謎の答。

通信問答。數件。

通俗衛生學講義。醫學士竹中成憲氏述。

左の諸君はいらつめの特別寄書家たるを承諾せられたり

いろは順

法學士 一木喜德郎君

高田政久君

高田幸子君

文學士 高田早苗君

醫學士 竹中成憲君

上眞行君

上野銀子君

井上十吉君

音羽富士子君

小具貞子君

文學士 岡田良平君

山川二葉君

後閑菊野君

合原琴子君

文學士 天野爲之君

秋山四郎君

佐方鎭子君

佐野安君

理學士 飯嶋晉君

理學士 宮崎道正君

杉浦重剛君

"HOW IS IT WITH YOU, TO-DAY?"

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十二號

社説

左の一篇ハ其論旨余儕の持論に反するもの頗る多しと雖とも結局議論の兩面を見るには頗る有益の文と信するを以て之を社説欄内に揭げぬ。

婦人に關する社會の風潮。

顧みれば三四年前の事なりき、社會改良論者も漸く談柄の陳腐きに厭きて何がな新奇なる事柄もやと四方を見廻はす折柄ふと社會の一大元素たる婦人の地位にして全く識者の忘るゝ所と爲り居るを發見し、爾來婦人の地位は全國流行の大議論となれり。　始より今日に至る迄僅かに數年を經たるに過ぎざれども、其間に束髪論起り、洋服論起り、舞踏會起り、慈善會起り、婦人會起り、學校起り、雑誌起り、全國至る所殆んど婦人交際會なんど云ふものゝ起らざるはなきに至れり。

此勢にして十數年の間も推し行かば日本の婦人社會は大半西洋風に變遷るべしと迄思ひ込みたるに、思はぬ所に横鎗を受け、西洋風の流行も少しく躊躇ひしは不思議に非ざる不思議にして、又案外ならぬ案外の出來事なり。　近來漸く洋服の窮屈にして束髪の美ならざるを厭ふものあり、又舞踏會の害多くして婦人會の益少なきを感ずるものあり。　社會の風潮復又變りて從前の情態に復らんとするに似たり。　是素より自然の勢なり。　是素より怪しむに足ざるなり。　蓋し社會の風潮は猶時計の振子の如し、右に跳て左に反り、左に跳て復右に復る。　一方に走するの力強きものは他方に走るの力も亦強し。　反働は常に正働と同じくして反對に働くものなりとは啻に理學者のみの言ふ道理にあらず。　然れども振子の右に反り左に復るは皆其鉛直の位置を求むるが爲にして一働する毎に漸次に中眞に近づくものなり。　社會も亦た此の如し、極端より極端に馳すと雖ども今回の極端は決して前回の極端に非ず。　次回の極端は亦今回の極端に非ざるなり。　例へば一と十とを以て假りに極端を示さんに、社會は常に一より十に馳せ、十より一に返るが如しと雖ども其實十より一に返るときは直ちに一に返らずして、一と十とを混合せたるもの即ち二若しくは三に反り、二若しくは三より十に反るには直に十に反らずして、九若しくは八に反るものなり。　故に社會は右に馳せ左に馳する毎に常に漸く中眞に近づく、是即ち社會の進歩する所以なり。　以上陳ぶる所は哲學の一大原理にして容易く說き盡くす可きに非ずと雖ども稍々其大體を窺ふに足らんか。　扨て婦人社會の風潮も封建時代の弊害を去て西洋風の文明開化に移らんとし、西洋風を去て再たび日本の舊習に反らんとするは誠に自然の道理にして、不思議に似て不思議に非ず。　蓋し社會が男女交際の害に驚き西洋衣食住の不便に怖れて漸く反對の徴候を示したるは實に尤千万の道理にして、余輩は只同意の外無きのみなれども、今より方向を變へんとせば決して單に舊來の情態に復す可からず、必ず新舊を折衷して中庸に近づくるの方を講せざる可からざるが故に濫に今日の婦人の情態には弊害ありとし、只其害を擧げて之を抛つ可らず。　如何なる必要に由て此情態を生じたるや、又如何なる益が此情態より生じたるやを講究するは

尤も肝要の事にして、經驗に由て寸毫も益する所無く、濫に東西に奔るは余輩の取らざる所なり。　余輩は數年の經驗をして全く水泡に皈せしむるを欲せざるものなり。

日本の婦人をして西洋風に奔らしめたるものは日本社會全体の風潮及び日本舊來の情態なり。　夫れ婦人に關する風潮も亦社會風潮の一部なり。　十數年來日本人は只管西洋諸國を模擬して只其似るの少なくして異なるの多きを是恐るゝの狀あり。　中には識者の日本舊來の美風を保存し愈々之を擴張せんとするの考案を有するものあるにも拘はらず、社會一般は利害の如何を顧みず一より十に至る迄皆西洋風を取らんとし、甚だしきは蛙の譬を引きて只外面さへ西洋に似せなば日本は生存競爭に敗を取ると無しと迄信ずるものあるに至れり。　社會全體の風潮は已に斯くの如くなるに獨り婦人をして舊習を墨守せしめんとするは恰も車の三輪を前に進めて而して獨り一輪を後に輓かんとするが如し。　斯くの如く西洋風に狂奔せて而して獨り其狂奔の非常に目立ちたるは舊來の情態之をして然らしむるなり。　社會は常に極端より極端に馳せて而して漸く中庸を求むるの理は既に説く所の如し。日本婦人の情態は猶時計の振子を左の極點に揚げ糸を以て之を繫ぎたるが如し。　明治の文明は其糸を切斷せり。　振子の右に反跳りて非常の極點に達したるも亦宜ならずや。　故に婦人社會の西洋風に狂奔せたるは罪婦人に在らず日本社會の風潮と日本舊來の情態とに在り。

扨て此西洋風の反動は如何なる利益を日本の婦人に與へたるやと云ふに、其智力及體力を發達せしめたるは實に蔽ふ可からざるの實跡なり。　此反動が婦人の智力を發達せしめたるの道二あり、一は交際より生ずる經驗、一は女子教育上に及ぼしたる影響なり。　舞踏會、婦人交際會等には固より害もあるべしと雖ども男女交際及婦人相互の交際が婦人の智力を發達せしめたるの功は爭ふ可からざるものあるべし。　討論を爲すに非ず、演説を爲すに非ずと雖とも互に相切蹉し、互に智識を交換するの具は自から通常談話の中に備はれり。　蓋し學校の教育も亦た能く智識を與ふるは勿論なりと雖ども、此智識を活用するの道を教ふるものは交際に若く無し。譬へば猶利刀を製するが如し、其材料を與ふるものは學校の教育なり、之を鍛へるものは交際なり。　且學校の教育と雖ども亦其目的に由て異同あるものにして、若し單に舊來の細君たるを以て足れりとせば爨炊の業、裁縫の藝を教ふれば足るべし。　婦人をして交際場裏に出でゝ毫も後れを取ると無からしめんとするが故に學校の教育も亦た日用必需の業のみならず、婦人の嗜とも爲るべきものをも授くるなり。　由是觀之近來の風潮が婦人の智力を發達せしめたるは蔽ふ可からざるの事實なり。　體力も亦た外部に出でゝ諸事に奔走周旋するが爲少なからざるの利益を受くるは疑を容れざるなり。

蓋し男女交際には往々言ふに忍びざるの害を生ずることあるは余輩も亦之を聞けり。　固より是等の害は男女交際に由て其機會を増したるに相違なかるべしと雖ども、一方より見れば是亦幾分か喜ぶ可き徴候を其中に含む所無きに非ず。日本にも一の有力なる交際社會を生じ、道德を欠き、廉耻を破

るものは交際社會より擯斥して不名譽と云ふ嚴罰を以て法律外に不道德、破廉耻の應報を與ふるは余輩の切に企望して止まざる所なり。　今余輩が屢々男女交際の害を耳にするは一は其度數を增したるが故なるべしと雖ども、亦一は所謂交際社會なるものが其萌芽を發して不道德の風聞傳播することと早きに因らぞんば非ぞ、何となれば從前と雖ども敢て醜行無きに非ざるも、一は余輩が之を聞くの機會を有せざりしが故に知らざりしものあるべければなり。　是即ち余輩が喜ぶ可き徵候と稱するものなり。

余輩は敢て今日の男女交際に害なしとするに非ぞ。　其害あるは余輩亦之を知れり。　只數年間の經驗を利用して後來の進歩を資けんと欲するが故に其經驗に由て生じたる利益を指摘して參考に供す、いらつめ記者餘白を貸さば幸甚。

小説

空行く月

美妙齋主人

第四回上

「明日妾は何某さんの園遊會へ參らうと思ふので厶いますが御天氣で厶いましやうかねエ」。

「左樣で厶います。　雨さへ降りませんければ御天氣で厶いましやう」。

では蟬が蝶の露を偸んで吞みます。

"How is it with you, to-day? Somewhat better? Yes, very good. You shall be cured in a few days." (「今日は如何です?、　些しは御宜しう厶いますか?。　へ、大層御よろしうござい升。　そンなら、もう直に御全快なさいましやうねエ」)

やさしい聲で丁寧に病人を慰めて居るのは十八九歳の英國の貴婦人です。　顏はこの、一月から以來の「いらつめ」の表紙に着けた肖像のとほりで、決して美しく無くはありませんが、また何處やら利かぬ氣性を帶びて居ます。　併しながら病人の枕元へ立寄つてさも熱心に病を訪ふた時の笑顏、それは想像しても御覽なさい、あの口唇がたちまち綻れて中から象牙の齒……い丶え何うして……象牙の御齒が愛らしく姿を洩らしたのですものを。　たとひ百難は有つたとて迚もこの笑顏には叶ふ譯は有りますまい。　まして介抱される病人の身になれば……骨身は鎔けて肉汁も出來ます。

貴婦人の身粧の工合、書洩らすのを惜しう厶いますから一寸一口述べましやう。　既に今は癈れましたが一頃は巴里でも何處でも大變に流行しました。　下衣は白カムブリックに四寸廣の牛乳緣飾、(尤も花紅葉に鬱金香を浮かせた)の七行襞を着けたので、其上には薄青と薄茶とを細密に菱織にした毛不切天鵞絨のチュニクと、前と全樣な牛乳緣飾のついた青編

子のジヤッケット、それに白瑪瑙釦鈕、の最上紫水晶の頸飾、何とも角とも譬樣の無いほど品のいゝ夜會服です。 身の動くたびにさやく\〵と歌ふ衣服の襞の邊から洩れてぷんと來る香水のかをりの床しさ、檸檬製の石鹸で無くては用ゐないよといふ手首の奇麗さ、つやゝかさ、その艶やかな手の指の間、純金に御身腰を据ゑた一分五厘のブラジル金剛石、これぞ主の眼とともに情の光を凝らして人の心の奥を射ります。
此樣な人に介抱される人……そて誰でしやう。
言はずと既に何方も御察しでしやう、その男は別人でも無い、例の桂弓之助です。 地中海へ投込まれてからやがてまた活生つたのです。
病を防はれましたので嬉しさうに頭を擡げ(是からの會話は渾べて英語ですが、繁雜を省くため兩方とも譯して述べます)、
「どうも色々の御深切、決して仇には爲ませんよ。 本當に貴娘は命の親です」。
「あら否な…改つて、貴君」、言ひながら貴婦人は傍の長椅子に額掛り、「あら否な…改まつて、貴君、そンな事を仰ふうと思召すので御身體にも障りますよ。 昨日も申しましたとはり、此處は別莊ですから、妾と伯母と下女下男の外は居りませぬ……來月は阿父も倫敦から遊びに來ましやうけれど……ですから決して御氣の置ける處ではムいませんから、ねエ、貴君」。
跡は首を傾けて嬉しさうに笑つて居ます。 其處で御付合の笑顔が弓之助にもあらはれます。
「どうも御口が旨いので……おや意地の歹い、何故御睨みなさる……御口がどうも、御口が實に旨いので……まア美麗さん、病人をいぢめるもンぢやありませんよ」。
「貴君は本當に軍人には珍らしいのよ」。
「何故……左樣です軍人に珍らしい弱虫海へ落ちるやうな弱虫ですから仕方が有りません。 何とでも仰い」。
「御口のわるい人だこと」。
しばらく話の尾も絶えて無言で二人は居ましたが、やがて美麗は手拭の縁を前齒で噛みながら
「一體どうして貴君、御落ちなさッたの」。
「どうも私にも分解りませんよ。 何でも羽が生えて海を飛ぶ夢を見て居たやうに思はれますが……しかし確に闇へ入ッて寝た心持は爲ますが、それでどうして落ちたンでしやう。
それから濱邊へ流付いて貴娘に救はれるまでは無論死んで居

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ましたから知ッて居る譯は有ませんけれど…どうも我ながら不思議です」。
「腦にまだ是ぞと言ッて標準を立てる餘地が無い時には前後不覺となッて喪神かと怪しまれる例は有りますから、貴君のも大方左樣ではムいましやうが…何にしても…は丶丶…貴君もよッぽど」。
「よッぽど何です」。
「四月馬鹿おやァありませんが、ね…よッぽど寢坊…お丶紳士に向ッて此樣な事を…失禮」。
弓之助は笑つて居るばかり、挨拶の言葉も有りません。
美麗はふたゝび眞面目になつて身體を前の方へ屈め、
「昨日も申しましたとほり妾が此以太利へ來て居りますのは、ね、他の仔細でも無く妾が美術を好むあまり、美術に於ては歐洲第一との許のある此國に住つて居りたいからの事で、こ丶に別莊のあるのを幸交際社會にも出て居りますので…ですから世界第一の美術國といふ日本の人を見ますと、どうも…」　すこし笑つて弓之助の顏を覗込み、「なつかしく思はれますンですよ。　今に御目に掛けますが、ね、アンダーソンや何か日本美術の書物はみんな貯へてありますよ」。

「ありがたうムいます」。
「あら、まさあンな訝しな事を…貴君は妾の言ふ事を冗談とばかり思召すから…紳士の美德は婦人を疑はぬ處にあると誰だか申しましたつけ」。
「決して疑ひはしませんよ」。
あ丶この挨拶の仕方の下手さ。美麗も流石氣の毒になりましたので話を外の方へ外します。（交際社會へ出た御蔭）
「是から妾は今夜の七時にプリムニイ伯爵の夜會へ出なくちやァならないのですが、何か御用は有りませんか」。
「用が有つたとて貴婦人を使役するのは田舍紳士だと誰だか申しましたつけ」。
「おほ丶丶直と仇討…よろしうムいますよ、覺えて居りますから」。
「それは左樣と、今夜の會はファンシー、ボールだとか言ふ事でしたが…」　言ふ下から弓之助の目は不審さうに美麗の身粧に集つて居ます。
「ね、ファンシー、ボール…誰が、貴君、曲馬師や何かじやァ有りますまいし、誰が、あなた、ファンシーボールなんぞを…」
「それも左樣ですね」。　この挨拶は返答に差支へたるを胡麻

化すための無茶苦茶です」。

その内に時もやゝ七時近くなつて來ましたので、美麗は佶と心付き、何か言ひたさうに弓之助の……左樣……弓之助の臥床の傍へ蓮歩を靜に移しましたが、見れば弓之助ハ我顏をヒッと眺めて居ますから、有繋に臆する心も出て、思はず頰に紅をさします。 此處がすなハち漢學者が畫龍點睛と言ふ處で、今まで色々な話を爲て居たのもつまり是からの一言を言はう〳〵と思ッた準備、事に因ると此處でも或は言出さずに止む人も有ります。 臥床の傍へ立寄ると、目はどうしたのか、どうしても弓之助の顏に向へません、方向は臥床の脚の端と絨氈との間の邊を意味も無くさまよッて居ます。

「早く貴君も全快して」、我ながら美麗も駭ました、聲の調子が奇妙に低くなッて居ます。「今夜のやうな會の時には……」跡は言葉がぶつりと絶えて、むしろ弓之助が繼足すのを待望んで居るやうです。 が、年の行かぬ證據、弓之助には繼足すほどの勇氣が痕を秘めて居ます。

「今夜のやうな會の時にハ一途に妾と出席して……」

幽微、幽微、本當に幽微、この一言の幽微なこと、幽微でそれで明發に聞えたこと、否も、類と眞似の無い家傳切疵の大妙藥。 是では緣日商人ですが、兎に角この時の調子の中にハ、一種の神靈が影の如く現れて居るやうです。 言葉が終掛る處で美麗の愛らしい上目はチラリと相手の顏を射ッて、直に本座へ戻ります。 目も熟練な輕業師です。

直に差代りまして代り榮のありますのは握手の禮です。上顎と下顎とぶつかり次第で出來る接吻……そンな事はどうでも宜うムいます。 只何が無し。美麗は他の手の垢を我手へ貰ふ事と、事に因ッて他の病毒を我身に吸込む事との二個を行ッて告別して出て行きました。 實におえらい衞生學者へェ成程、疥癬の藥の用意もムいますか。 如何にも獸類とすべて接吻しますねェ。

家政

人工の片輪（つゞき）

亞非利加洲の或地方に於ては婦人の容貌を美にするには是非眉毛を拔取らねばならぬとと考へ居る種族多く殊に此用に供する毛拔ハ化粧道具中の重なるものとなれり。 其他男子の鬚を剪り、又ハ之を剃る風俗の各國に存するは今更事新しく言ふまでもなきとなり。 指爪の色合及ひ恰好も亦流行を趁ふものなり。 アジアの東都に於ては爪を長す風習行ハる。 然れども爪ハ其生長に信すときは非常の長となり其取

扱の不便いはん方なし。故に此風習も唯一地方に止まりて廣く行はれず。

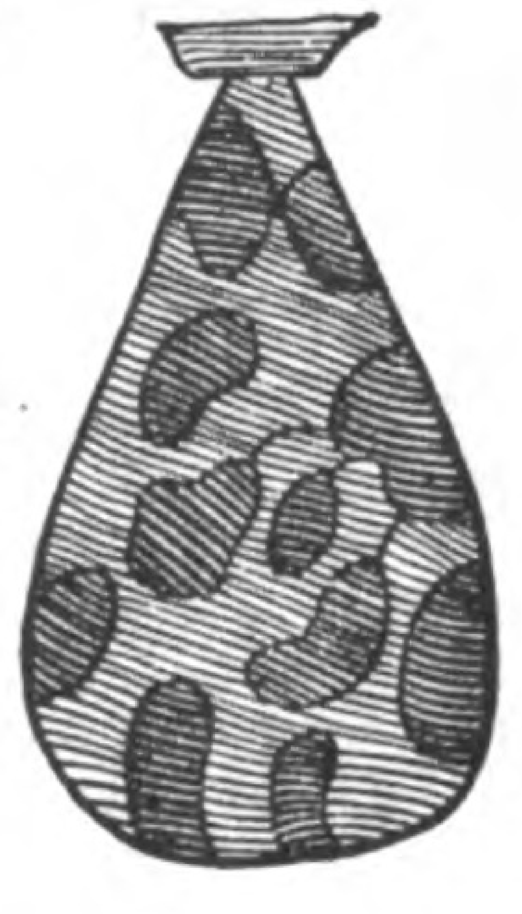
支那の隱者の手

今此圖を茲に掲ぐるときは人必ず難じていはん、此の如きの爪は之を指して畸形といふべからず。寧ろ天眞を傷はざるものなり。吾人が爲す如く之を剪ることと自然に背くものといふべけれ」と。然れども此說大に非なり。此の如き非常に長くして不便なる爪は間斷なく種々心を用ゐて之を保護するにあらざれば毀損を免るゝと能はず。もし手を使用ゐると通常人の如くなるときは爪は生長する丈磨損じ去ると恰も山禽野獸の爪と一般なるべきのみ。

次に世界中に廣く行はるゝ刺青の事を述べむとす。此術の最も手荒きものは今尚オーストラリア洲の黑奴諸部落の中に行はる。始め刺青を施すには肩或は胸に鋭き石刀を以て線狀或は圓形の傷を付け、之に塗るに木灰を以てし、全く癒ゆるを妨げ痕を留めしむ。其痕は隱然として高く皮膚は生來漆黑なるか故に刀痕のみは其色淺く一際目立ちて生涯銷滅するとなし。是より追々進みて種々込入りたる紋形、花形、花押、渦形或は山形等を刻するものあり。又之を施すに唯面部に限るものと頭より足に至るまで全身に施すものとあり。此等の痕は之に貝製の針若くは鐵針の把を以て爬き、故油煙若くは他の顏料を加へ永久摩滅することなからしむ。故に全身の刺青を尊ぶ處にては其手數の煩はしきのみならず、其苦痛は之を聞くも尚人をして寒心さしむ。アフリカ黑人種の中には刺青の形によりて各種族を區別するが故に一目して其何族に屬するやを知るを得るといふ。

鼻唇及び耳は容貌の美醜を分つものなれば野蠻人種中にては各其欲する處の美貌を作らむが爲に或は之に孔を穿ち、或は之を切り、或は其形を變ずるあり。船將クック氏が其著す處の航海記にオーストラリア洲の東岸に住する裸體の野蠻人を記して曰く「此野蠻人の重なる裝飾は鼻孔の軟骨を横に貫きたる骨製の笄にして其太さ指程あり其長四五寸あれば顏の正中を眞一文字に横斷せり。此笄は全く鼻孔を塞ぐが故に鼻より呼吸する能はず、常に口を開いて呼吸す。抑々又其談話するとき聲は鼻に掛りて殆ど辨ずべからず。如何なる好ありてかゝるとを飾と考ふるか、又如何なる考が苦痛と不便とを忍びて此風俗を作らしめしか、殆思慮の及ばざる處なり」。

千六百八十一年ダムピール氏か中央アメリカのモスキトーの海上なるコーン島土人の風俗を記して曰く「此島民は幼稚のとき下唇に孔を穿ち之に木片を塡めて其孔の元に復するを防ぎ十四五歳に達すれば之に鼈甲製の飾を以てす。



此飾の上部に付着たる把手の如きものハ齒と唇の間ニ挾りて此飾の留となるものなり。下部ハ頤の上を蔽ひて垂る。土人ハ終日之を懸け寢ニ就とき之を外すのみ。又男女共幼稚のとき耳ニ孔を穿ち之ニ木片を挿み次第ニ木片の大を増し遂ニ五厘銅大の孔となるニ至りてハ之を塡むに圓滑なる木片を以てす故に耳珠ハ全く木より出來るものゝ如く僅ニ其周邊に肉を止むるのみ」と。

ブラジルの南部に住する印度人中ニも唇に孔を穿つ風俗あり唇の飾ハ堅滑なる木片ニして其重三十匁計ありて下唇を引下げ齒と齒齦を全く露出せり。かゝる異相ハ吾人にハ唯恐ろしきとのみ見ゆれとも此等の野蠻人ニ取りてハ可憐の容貌なり。

アフリカのボンゴ種族の婦人は嫁するや否や下唇を引延バすとに着手す。最初ハ細き孔を穿ち、之に木片を挿み、次第に其大を増し。遂ニ最初の五倍若くハ六倍ニ至りて止む。上唇ニもまた孔を穿ち釘を以て之ニ挿み時々小環を懸く。唯唇のみならす鼻孔の各邊ニ穿ちたる孔にも三四の藁稈を挿み中央の軟骨ニハ銅環を懸く、恰牛の鼻環の如し。又貴女の盛裝ニハ口角ニツカミを嵌めて口を縮むるの風あり。又ルーバー種族の婦人ハ唯環を懸くるを以て滿足せず唇を貫きて水晶製圓錐形の棒を挿む恰犀の角を眞似るものゝ如し。

ルーバー婦人

斯く天眞を傷ひ、苦痛を忍び、又不便なる此異風が異りたる人種、隔りたる土地ニ流行するハ如何なる故なるか、之を一源より來るものとすれバ其由來久しからざるべからす。若し然らずとせハ各自に發達したるものと見做さゞるべからす。何れニしても最奇なる事といふべし。然れども耳ニ孔を穿ちて實用に供するといふが如きは極端の場合といふべし。今其一二の例を示さむ。

船將クック氏の航海記ニ圖せるマンジヤ島人の如き右の耳珠ニ孔を穿ち大なるナイフを懸くるあり。ニウジーランドの男女は耳ニ孔を穿ち之を引延し擴大げてポケツト或ハ袂の用をなさしむ。韋、骨、石鑿及ひ針、親戚の遺齒、遺爪、犬牙、其他珍しき品ハ皆此耳孔の中ニ入れ或は之に懸くといふ。英國の水夫か彼等に鐵釘を與へしときもまた同しく之を耳孔に入れしといふ。嘗てロンドンの見世物ニ出しズールス人ハ卷煙草を耳孔ニ入れしとあり。

ウイルフレツドパ

ウェル氏か余に贈りし信書の中に氏はニウギニアの海上の一島に於て一土人を見たるに耳珠に穿ちたる孔を擴大て手を自由に拔差するを得へき大に達し一見すれは大環を耳に懸けたるかと思はしむる程なりといへり。

歐洲に於てハ社會半數の婦人ハ全く耳環を懸くるの風を棄てたりといへども半數の人は今尚其風を存せり然れども其穴の大ハ次第に縮小て唯纔に裝飾を懸くるに足れは可なりとするに至れり。

〔未完〕

小供の育て方

癎の話。附ヒキツケの療法　醫學士竹中成憲先生口述

癎ハ大概の人にある病で別に大した障はないもので而して年をとり次第薄らぐものでムいます。　此病にハ著るしい療法はありませんが私の御話申も癎は極けしい癎で醫者が急癎又ハ子癎と申て西洋でハエクランプシアと申すのでムいます。　是ハ小供に多い病氣で大人にハ少うムいますがないではありません。　其種類を擧げますれバ

第一　鉛毒急癎　鉛の毒に中りました時發る癎です。

第二　産婦及妊婦急癎　是ハ婦人方の産前や産後に發きるヒキツケです。

第三　小兒急癎　是は小供に發きるヒキツケで二才以下の小供に多い癎です。

ヒキツケハ右の三色でムいますがこれから御話申すのは第三の小兒急癎でムいます。　小供の内は至て癎の多いもので其現症ハ色々あります。

第一　眼球旋轉　とて眼の球がグルグル廻る癎で俗に眼を廻すと申すのです。

第二　拇指内屈　拇指がくの字なりにツル癎でムいます。

第三　口唇攣急　口の周圍がヒキツル癎でムいます。

第四　全身强直性痙攣。ウーンと云てどうかうする間もなく體が後の方にソツテ倒れる急癎です。

第五　全身間代性痙攣　とて惣身がブルブル震る癎です。

是等はまだ輕い癎でムいますがつよい癎になりますと急癎では知覺と神思が半分なくなりますか又ハ丸でなくなります。　此癎は恢復えるのもあり又死でしまうのもあります。　そして度々發きますもので日に五六度も發きるとがあります。が、若し幼少な時死なければ此病は癲癇の様に生涯ツヾくものではありません、年をとり次第治ります。

癎の源因

癎ハ達者な小供には少なく孱弱な小供に多いものですが其原因を大別しますればハ次の

二色でムいます。

第一　兩親に左の病氣か事情のありますときは其子は大底癇もちです。

一　癲癇
一　ヒステリヤ(シヤクもち)
一　酒飲
一　神經衰弱症
一　嗜乳の際烈しき精神感動(夫婦喧嘩や凶事など)

第二　小供に左の如き病氣か又は事情がありますと其子は癇もちでムいます。

一　滋養不給とて乳が十分でないとき。
一　生歯期とて歯の生えるとき。
一　蛔虫の生きたるとき(是が最も主な源因にて多くは是で癇を發すのです)。
一　食物が消化れずに胃腑に停滞てゐますとき。
一　胃病や腸カタルに罹りたるとき。
一　脳充血とて頭に血が上りたるとき。
一　熱病にかゝりたるとき。
一　泥沼性病(オコリ)にかゝりたるとき。
一　麻疹や猩紅熱などの傳染性病にかゝりたるとき。
一　不安眠症とて毎夜よく眠られぬとき。
一　精神興奮症。

癇の源因は右の如く親と子と兩方にありますが頭是なき小供に罪はありません、兩親の不注意より畢竟起るのですからよくよく御注意あるべきことです。療治法は次號に述べます。

(未完)

小供を素直にする法。

小供は我儘に育てゝは決していけません。けれども悪戯もせずに面白く樂でゐるとき急に連れ出したりなどするのは極いけません。ですが毎夜定の臥時が來ましても一向臥やうともせず遊でゐますときは臥かさなくてはよろしくムいませぬ。熟練な慈母や乳母は大概見計て御手遊をあてがいますとから臥時には不平なく臥床に行きますが見計なくやりますとダヽを云て臥ませぬが手を變え品を換て臥させなくてはいきません。若し聞かなければ泣いても仕方がありません。が、なる丈泣かせず怒らせぬがよいです。以上は一例ですが總て小供の我儘を聞いてはいきません。

小供を十分素直にするには小供が兩親は自分の最も愛すきべ最も信ずべき又最も尊敬ふべき人達なりと思ふ樣にするのが肝心です。小供にかやうな感情が起りますと兩親のす

るとは無理ではない我身の爲だと思ひます。
俗に小供は物を毀すとが好きだと申ますがこれよりか小供の好きますのは自分より年長者の眞似特に人の用を達すとです。
「坊やあのパツパを取ておくれ」と云ひますと喜こんで持て來ます。此天性を巧みに育て上ますれば小供を素直にする一方便にて段々父母の命を聞く樣になります。けれども「大人敷すれば賞與をあげる」とか「これをすれば何をあげる」とかと云て直接に賞與を與えてはいきません。素直を買てはなりません。また世間には「御前は良い子だから御使に行てきておくれ」など申て煽動て頼む人達がありますが一體親が子供に命令をする前には十分注意して考えなくてはなりませんが一度命令をしたからにはどこまでも從はさなくてはいけません。「そんな事をお爲だと御灸だよ。あら泣ないでも宜よ、是を與げるから御默な」と叱るのか慰めるのか分らぬ御母が有ますが是では素直にはなりませぬ。若し順はぬ時は力を以ても順はせるがよろしい。責罰は實に必要です。是れおつきては後號に述べますが責罰は無暗にやりますと裏店の餓鬼の樣になります。
責罰を加えられたる時小供が不平を起さずに我が叱かられたのは我があしき爲なりと思ふ樣に責罰を加えなくてはいきません。わんぱくで親の云ふとはなんとも思はぬ不孝者が澤山ありますが是は親の育て方がわるいので教育の法を知らぬからです。隨分經驗に乏しき母は小供の天性を漸々曲らぬやう導かんとはせずに壓しつけやうとする方もありますが是は水を治むるに水を堰き留めると同じて堤は直にきれます川をさらッて水を海に流さなければ水は治まりません。（未完）

急病の手あて

●切創　刃物や竹やガラスで切りたる時は手や足なれば創口を冷水で洗ひ竹やガラスの殘あらば取出し、血の出ぬやう強く抑えて水中にて冷やし血の止たる頃水より出しカタ油を塗り綿をかぶせ布にて捲きおくべし。若し大創にて血が飛び出すやうに出るときは創より上を紐にて極強くしばり血を止めて醫者を呼ぶべし。腹などは小ければ銅錢でおさえて血を止め油をぬり即効紙を貼るべし、若し大きければ皿にて強くおさえおき醫者をよぶべし。

●毒虫の螫したる時　は直ぐ水にて洗ふか口にて吸えば大概よいですが一番よいのは直ぐ穴口を燒くがよいです。

●溺れた人を回生す法。水から出して平な地面に乾いた衣服を布き其上に上向に臥かし兩足を膝と腰とで曲げ腹をつよく壓えて水を嘔かせ口の中を拭ひさて餘り高くない枕をさせ醫者の來るを待つべし。

●咽喉に物のかゝりたるとき　は通常は御存の飯や團子の丸呑みがよいです。尤も眼を白黑にして苦しむときは指の屆きて除く事が出來るときもありますから蒼皇ずにヤッテ御覽なさい。其他は醫者でなくてはいけません。

●クジキたる時　は酢と水と和せて布巾に浸し患部を冷すべし。冷水でもよいです。一番よいのはヨジユームチンキを筆にて熱のある部分に塗るのです。

●衄血　を止めるには鼻に紙の栓をして額を冷すがよろし

い。尤も頭を下げてはいけません。

●水蛭の吸口の血を止めるにはフノの粉をツケて其上を四重に折り水に浸したる布にて壓ふるべし。

徒に午後を思ふ者はその為に午前を費し、費した午前を惜しむ間に又午後を費す。

流行

帶　一盛一衰は物の數と言つて、流行の廢の俄な物に限り、またそれだけに廢れるのも早いものですのに、繻子の帶ばかりは幾年も幾年も廢れる體も無く、純子にも一泡明かせ、天鵞絨にも一歩を讓らせ、年々に版圖を廣め「浮雲」に言ふ生理學上の美人までが勝手に之を用ゐるやうになりましたのは、其實體裁が美しいばかりで無く、一つには價格が恰好ですからです。　けれどいつしか廢れる時はあるに違無いと思つて居る内に此頃は餘程變はつた事柄が現れて來たと言ふのは繻珍が次第に販路を增して來た事です。　何か晴々しい會合の時など隨分此繻珍の帶をしめた人を見受けます。　此勢で進んで行けば終にはまた事に因ると繻子を壓倒するか知れません。　勿論今まで繻珍とて帶になつて居なくも無かつたのですが價が一寸繻子よりも高いため、つまり人も躊躇で居たのです。　併しながら目今主に人氣のある處は一番六圓乃至十圓の處で、その模樣には矢張土耳古形などは人氣に入りません。入るのは淡薄な、そして濕潤くない密模樣、たとへば花菱つなぎとか澤瀉くづしなどです。

傘　初夏の頃の樣子では總飾付の蝙蝠傘が此夏は大きに流行しさうでしたが、婦人洋服が廢れて來るのに伴つて之も左程流行しません。　矢張り二重海氣にバネ無し、自在轆轤の物がまづ人氣澤山です。

扇子　西洋風の濃厚とした扇子には猶人氣が向きませんが、狹い外骨の物は次第に廢れました。　通常今日行はれるのは廣い外骨で十三間ぐらゐの薄手の物です。　たゞし紳士のは何とも定まりません。　外骨は鯨斑竹などの物がよく出ます。

婦人洋服　大層廢れました。　が、御參考のため價を申しましやうなら、一般に下落して居て、上等セル地、十圓乃至十三圓。上等リンネン、十圓或は十一圓。薄地カシミーア七圓乃至九圓。

單物　矢張りスキヤがよく行はれさうです。是は從來の持

越と價が絽より廉い故です。鯨製の汗押へ、よほど人氣が有ります。淡紅色の下衣、是が十二から十五六までの女の子の下衣にそろ〳〵出て來るやうです。今迄專ら行はれた赤のよりは透いて見えて味が一入です。山繭縮緬鳩羽鼠、小形紋の單衣は若い貴婦人の中にやゝ盛になりました。

足袋　絹か、寒冷紗が上口です。コハゼ緊め、ゴム緊めとも兩方ながらよく出ます。

次號に掲載する流行新案の中の重な物。

朧銀の時計側

玉盡の時計ぐさり

孔雀扇

藤紫　襦子、萌黄錦製紙屑籠

化粧

手の色を白くする法

一體手の色を白くするのに彼の是のと藥が有るやうに言ふのは大抵香具師の口癖で、實際は微温湯の中で最上の石鹼を用ゐて丁寧に手を洗ひ、洗果てゝは乾いた手拭で精々強く皮膚を拭ひ、血の循環をよく爲せるのが第一の法で厶いますが、是があまり簡畧過ぎて居るため世人に信じられませんのは慨かはしい事です。淑女の方々、もし手の皮を滑に、透徹るやうに奇麗に爲さらうと思召すなら必ず右の法を幾度も御用ゐなさい。尤も左の藥品をも併せて用ゐれば成効も速です。

巴旦杏　二オンス　　白蠟　三ドラクマ

鯨頭油　三ドラクマ

右の三品を薔薇水で丁寧に煉交せ、夜臥床に入るとき手へ塗るのです。たゞし塗た上に手袋を掛けなくてはなりません。

日に燒けた手を白くする法

日に燒た手をば些斗の檸檬水で洗ふと一寸白くなります。尚其上に檸檬製の石鹼を用ゐれば極よろしう厶います。

次號に記載する化粧法品々

曾達で髮毛を洗ふ善惡。

髮毛をよく保存させる法

批評

浮雲　（承前）

脚色の評は大略濟みましたから是から筆を改めて文章の評に取掛りますが、猶其中には脚色と文章との間に立つ「結構」といふものにも止むを得ず說及ぼす事も有ります。

明治維新以來言文一致主義に基いた純粹の俗文体が一冊の書物となつて現れたのハ實に此書浮雲が嚆矢でしやう。で、二葉亭氏の序で見ても四角張つた漢語を省き、舌足らずの和文を脫し、自由自在に思ふ儘を書記さうといふ一點から俗文に爲さつたのでしやう。　それなら第二篇第八丁第十二行の「健羨」ハ如何なものです。　仝じく第九丁第五丁「閑視」は如何なものです。　浮雲の文章に付いて第一に起るべき非難ハ六箇敷い漢語がまだ十分に痕を去つて居ないことです。それも餘儀ない、必要の物ならば例外とも言へましやう。けれど其他の卑近な言葉でその代用を爲るものが必ず無いといふのでも無くて之に拘泥するのハ如何でしやう。　事の善惡ハあへて之を博士の腦に訴へるまでゝも有りますまい。　是が浮雲の第一の疵。

次に事々しく漢名のやうな文句を好んで用ゐるのが此浮雲の文の癖で殆ハ既に何かの雜誌で評したやうに思ひますから更に重複の勞を執りますまい。　是が浮雲の第二の疵。

次に無用な重言葉を殊更らしく用ゐること、是が浮雲の文章の否味です。　まづ初篇第一丁の「つら〲見て、篤と點檢する」、二篇第五丁の「びつくりして狼狽して」、仝じく第十六丁の「丁寧に慇懃に」、仝じく第三十四丁の「謝罪し、拜拾する」など孰れも此病にかゝつて居ます。　勿論意味を強めるためだと云ふ辨護も有りましやう。　けれどその辨護は……はて文をよく御覽なさい。

次に必要でも無いことを事々しく書くこと是が浮雲殊にその第二篇などにハ澤山有る處の缺點です。　たとへば二篇の第一ページ、「晴衣の亘長を氣にしてのお勢のじれこみがお政の肝癪となつて廻りの髮結の來やうの遲いのがお鍋の落度となり云々」などハ非常につまらぬ事實をつまらぬ筆で書いたので蛇足どころか有つて却つて不快を增す物です。　其他第八ページ漢籍の人を細叙するところなど變化も何も無く而も巧な筆法でも無く、平凡で、ごくつまらぬ、所謂裏店の天下さまが故さらに井戸端に人を笑ハせて居るやうな書風です。　文三が依賴に行く洋行がへりの人の叙し方など、また仝類です。

その外言文一途に主義を取られながら著者の自序がさうで無いのハどういふ物です。　雅俗折衷体の御手際を見せやうとの御心ならアンな文では……いやさ序は序だけの役目だけハ盡くして居ましやうよ。

次に「行く」といふべき處を「參る」とされたその故ハどういふ物です。　浮雲のやうな文、すなハち「失禮」奧妙齋が出前用ゐた樣な文を日本語の基礎としやうといふ御心組で、この處置を爲さつたのですか。　果して左樣いふ御存心なら、猶御注意の足りないと思ふ處が無くも無う厶います。　もし左樣で無いならば、どこかの御國訛が出たのでしやう。　はて、どちでしやう。

次に「ヤミラミッチヤ」、「チビッチョ」などまだ原故が判然しないものを勝手な腕力であらハされた御志ハどういふものです。　非常な必要の場合の外は解釋のまだ十分で無い語を用ゐるのハあまり好いことでも有りますまい。　殊に「チビッチョ」を御國訛を出されたのには驚きました（地の文に）。　「チプイチ拔物」といふ語ハ記者も聞きました。　けれど「チビッチョ」とはまだ……あゝ……

一概に浮雲の文を評すれば誰やらが言つた人をちらして笑ハせやうと力むるやうな類です。　一寸新奇な句ハ初卷の夕月の邊の形容や、上野公園內病氣が飛散る處などの二三です。

更に比較上から浮雲を評すればこの數年來風積の著述です。　（網條節畢）

明治之細君

鐵筆將軍著、本郷盛春堂發兌。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評家が自身の好尚に任せて物を評するのハ著者にとつて迷惑だと著者の自序にあります。如何にも左樣です。よつて記者も精々その氣になつてまづ自身の好尚ハ水で洗つて取掛りましやう。

まづ發端の趣向ハ新らしうムいます。

脚色は畑のやうで淡泊と評すれば淡泊、不作法と言へば不作法です。文章には御圖說が大分有つて、假名も中々間違つて居ます。「腕ハ眞影流云々」(四十九丁)は浮雲に有つたやうな句です。すこし奇を好んで人の眼を射らうといふ形迹が全篇の處々に見えて居るやうなのハちと變です。敍事體を持込んだ趣向、ハたらきが有りません。「いらつめ」を中に御用ゐなさつた御好意はありがたく拜謝いたします。

一言で此書を評すれば南瓜を麤節で水煮にしたやうな味の物です。

演藝矯風會新作歌曲

其一　籬頭の菊(高崎正風作)

菊の花にはにほひが有つても此歌には有りません。菊の花ハ百花の王でもありましやうが、此歌ハ歌の下郎です。述べた處に何處に新奇な趣向が有ります。どこに巧みな句が有ります。文法が合つて居るだけの作です。面白くも何ともありません。高崎君の作と聞きましたゆゑどんな名什かと思ひましたら……いやも中學校の生徒が作つた物ぐらゐな趣向です。細かに評するにも及びません。

其二　水の江(物集高見作)

實にこつてりとした作で、恐ろしく掛詞が有りますが、いづれも陳腐なものゝみです。前人の眞似を爲るぐらゐなら誰にでも出來ます。はじめに「宮子島」、をとし後に「むら島」、次に「[illegible]」……動物園が出來て居ます。「磯貝」、「板屋貝」、「うつせ貝」、「鮑の貝」と貝類を澤山出された處で見ると「貝」について縁語をさげ、隙間なく書かうとの御存心でしたらうが、たつた四つだけでハ拙の處がおゞきすり見えて仕舞ひます。そして「玉手箱」が一首の中に二つ出て居ます。(ですから「玉手箱」ハ「フメ」の枕詞でしやう)。全体趣向の無い歌です。

記者ハ演藝矯風會を以て日本文學の一大現象とし、隨分陰ながら望をおいて居ました。が、こんな作が出るやうでハ些し望みが外れました。

文藝美術

葵ゑ月のさしさるさまいとをかし。　美妙斎主人

れのづから諸鬘せり、葵ぐさ、
月の桂のさすゑまかせて。

題しらず　仝上

身をつめば仝心に澄める哉、
つごもり方の有明のかげ。

をしまれてこそ物もたとけれ。　仝上

待れずて鳴なましゝば時鳥、
さゝ一聲やかひ無らまし。

喜撰法師。　仝上

暁のくもにハ月の逢ひつゝも
其身としかぞ住るゝける。

第十回東京金蘭會唱歌　美妙斎主人

十回の　まとゐ　かさねつゝ、
思へバ　過し　その　昔、
指　僂へて　いつしか　と
待ちしも　夢に似さり鳧。
稍ゝ　散初めし　二十日ぐさ、
墓なき　色と　のぞましな。
今　咲出る　花あやめ、
まじはり　深き　根ハ頼め。
軒端に　通ふ　つばめにも
嬉しき　今日ハ　知られ鳧。
羽　打交し、むつましく
千代千代千代千代と　祉と　呼べ。

野生の花薔薇

原詩ハ「モード、ムラル」とて英人「ホイッテーア」氏の作に係る。

重陽禪師

草の　薫む　いと　消き

夏野を　ひとり　掻拂ふ
モード、キャラルと　云ふ
處女。
帽子も　敝裂けされど、
田舍育の修飾なき、
その　壯健さ、うつくしさ。
掻拂ひつゝ　うたふ　聲、
壽命鳥の　鳥も　林　より
返聲の　如く　調子　取る。
遙那方の　市の　方、
小山に　見ゆる　白き　物
眼に　入れば　這ひ　如何。
倏忽　歌も　あと　絶えて
何か　知らねど　物おもひ、
胸に　充ちたる　如く　之。
嘗て、望みし　もの　よりも
はるか　優りし　望みごと、
迚も　遂るは　難からめ。

栗毛の　鬣　なみたゝせ、
狹き　小路を　靜やかに
乘來る　人は　判官よ。
手綱を　引くや　林檎の　木、
乙女に　言葉　交さんと
木蔭の　方に　向ひつゝ。
路を　横切り、叢を
ひきて　流るゝ　眞清水を
呑まゝはしやと　望みける。
訪はれて　辭む　體も　無く、
泉の　岸に　かゞみつゝ、
錫の　洋盃に　滿さしけり。
いざ薦めんと　せしからに、
敝るゝ　裙と　赤足とに
耻ぢて　面も　あからみぬ。
「これ　有難や、かく　旨き
水を、斯迄　うつくしき
手より　呑たる　例無し」。

（未完）

是は宮城縣鹽竈の神司なる人の作られし名什なが
ら其人は今既に世を去たればその紀念のため「い
らつめ」に揭ぐべきよし言越されたるまゝ、こゝに

新曲　宮城曲　宮城　遠藤信道撰
　　　　　　　宮城　山下國義調

（琴、半雲井◎三絃、本てうし）

豐葦原のひむがしの　陸前なる宮城野の　名をなつかしみ、
思ひたつ　鄙の長路の其憂も　何白川の關こえて　遙々きぬ
る旅ごろも　きつゝ馴にし妻しあれば　忍もじ摺たれ故に
亂初にしいにしへの　人ならねとも、ならねとも　都の空は不
忘の　山にたゝにふ雲見れば　逢隈川のあふといふ　名さへ
仇なる心地して　踏み、ふまずみ、物思ふ　八聲の橋のあかた
きの　露にぬらし、我袖を　絞りもあへず竹駒の　二木の松
の相生を　三熊の杜にいのちまし。（本合）琴平調子三絃二上り　君もろ
共にわたりけむ　眞須良武夫が名取川、青葉の山の帶にせる
廣瀬の川も春くれば　緑にもゆる青柳の　長き旅路の憂を
さへ忘れて今日は宮城野の　木の下露はしげるとも　躑躅が
岡の花蔭に　今宵は一夜丸寐せむ。　玉田横田のはなれ駒、
あせみの花につなげども　繫難きは春ごゝろ、霞と共に朝た

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ちて　誰冠川ふみわたり、多賀の石碑よむ袖よ　拾ひて包む燒瓦これや昔の名殘なる。（本サンサ時雨三回）三絃三下り（合）箏中空　烟たな引鹽竈の　宮の岩坂ふみならし、賢き神の大御稜威　今日は現よ拜みて下れば千賀の浦小舟　海士ならぬ身も棹さして　沖の八十島こぎめぐり、月見ヶ崎よ來て見れば　朧よかすむ春のつき　波の枕よ眠るなり。　浦の苫屋の夕げふり　心細くも見ゆるかな。　あな面白の景色やと　昔おぼゆる須磨琴よ波の緒すげてわが引けば　しらべよ通ふ松島の　浦松風も君が代は　千代よ八千代と響くなり。（三絃本てうし）げよ豐なる大御代よ　生れし甲斐も有磯海の　濱の眞砂の光無き　詞の葉なれといざや吾　衣の袖よ書付けて　京のつとよ歸らまし。あな面白のけしきやな。

學藝

蟲の話。　其四。

蚊の話は前號までゝお預よ致まして是から蚊と同類の雙翅類なる蠅のお話よ移ります。　蠅よも種類は多くありますが其大略を申さばギン蠅、クソ蠅、ヌスピト蠅、馬蠅、牛蠅、蠶の蠅、午睡の邪間する家內の蠅、旅人を惱ますゴマノ蠅は維新後減つたと申すことです。　かく種類は澤山ありますが其形狀は皆酷く似て居ます、夫故一々圖をば揭げません。　家內の蠅よ就て形狀の大略を記さば頭は割合よ大きく、頭の七分方は眼球よて、眼球は前よ申した複眼とて五六百の眼球の集つたもので肉眼で視れば小豆色のナ、コの樣よ見へます。　口よハ針も刀も無く嘴の先には液を吸ふ爲の孔がある許りです、されば砂糖や乾いた肉の樣な固體を食するときは先づ嘴の內より液を出し砂糖や肉を溶して吸ひ込みます。　又觸角ハ極めて短く殆ど無い樣よ思ハれます。　胸部は色黑く茶の縱縞あり、翅は丈夫よて極めて薄く光の加減よ依て石鹼球の樣な虹色が顯はれ、足も丈夫よて色は黑う御座ります。　腹部は茶色よ黑の斑があつて四つの節よ分れて居ます。

雙翅類の中眼が複眼よて大いのと觸角の短いのとが蠅類の特徵ですが、此類の中よは動物の血を常食として嘴よ鋭き刀を備へて居る類を古來虻と稱へますゆえ、今假りに蠅類を蠅と虻とよ大別致します。　されば前よ列記ました馬蠅や牛蠅は虻の類です、ゴマの蠅も虻の類かも知れません。

蠶の蠅ハ先年佐々木忠二郎氏が取調べて先人未發の說を公よせられました蠶の害蟲です。　此蠅の取調よ就ては養蠶家が佐々木氏より蒙ふる恩いと洪大なるべく、吾々とても深く佐々木氏の効勞を謝さねばなりません。　佐々木氏の報告よよれば蠶の蠅は卵を桑の葉よ產みつけ、其卵ハ養蠶室よて孵化れて蛆となり、忽ち蠶の腹部よある呼吸口より蠶の血管內よ入りて漸く成長し、蠶の繭を結んで蛹となるの後繭を突破つて這出で速よ地中よ潛みて蛹となり、終よ化して蠅よ成るのです。

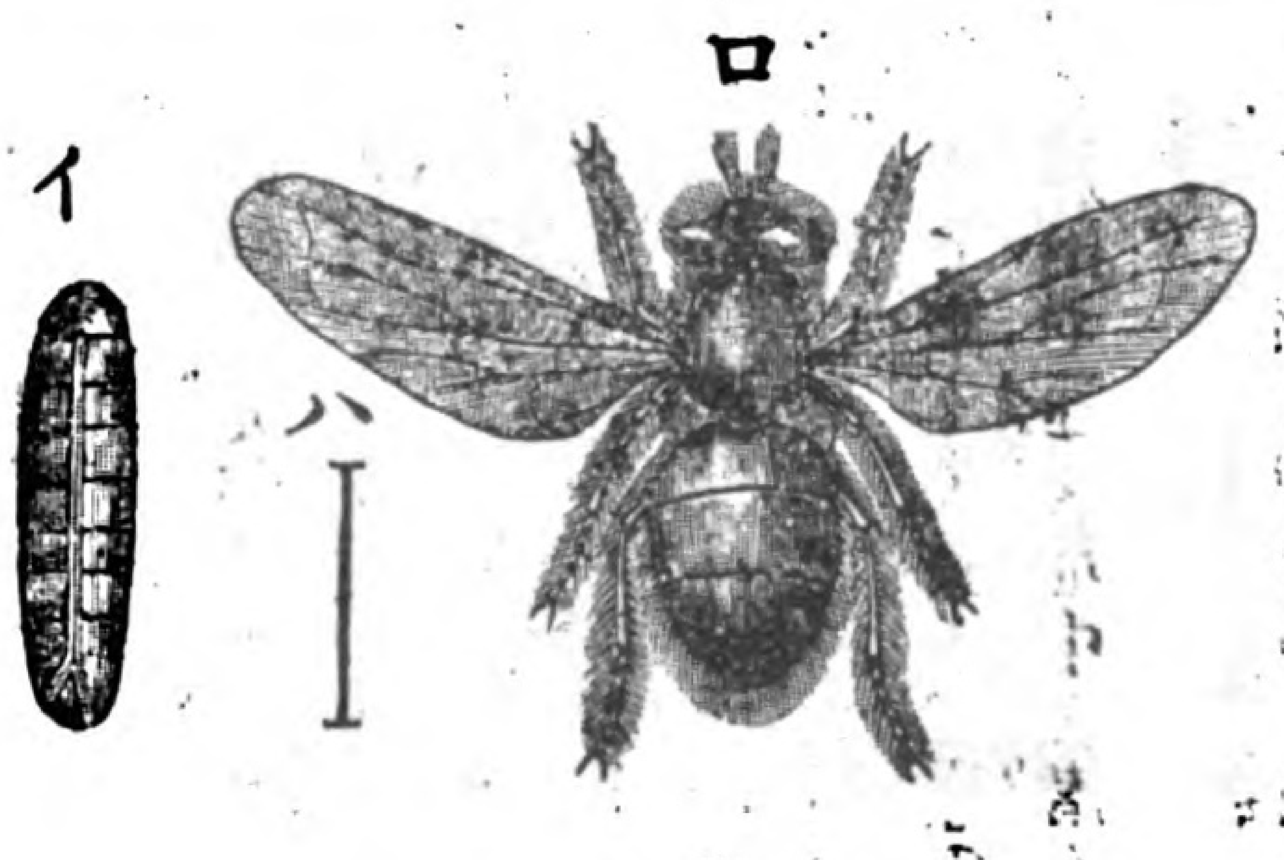
牛蠅は嘴よ鋭き刀を備へて牛馬の血を食とし、剰へ牛の皮

腐を切裂て卵を產み込み、其卵は皮肉の間に成長して、牛を苦むること少しとせず、蚤や蚊が人類を惱ますよりは、牛蠅が牛を惱ます方が遙に殘忍で御座ります。　御覽なさい蚤や蚊が人の血を吸ふのは十分に成長した時期ばかりですが、牛蠅は牛の體の暖氣にて孵化れ其蛆は牛の肉を食て成長し、終に十分發育て蠅となればまた牛の血を貪づて生活て居ます。　亂臣賊子は實に此牛蠅に譬へたら適當で御座りましよふ。

馬蠅は馬の胸或は前足の毛に卵を產みつけますが、總て毛に產みつける卵は髮虱、毛虱の卵と同じ形狀にて、膠質の乾き易い粘液で卵を毛に粘附るのです。　大約二十日も經れば其卵の頂が裂け小さき蛆が這出して馬の皮膚を這廻るゆへ、馬は痒みを覺え、舌にて皮膚を甜めます。　此時馬蠅の蛆は馬の舌に乘移り秣と共に腹中に入込み終に胃に達し、全身に被ふる針を胃の裏面に突刺して其體を止め、胃の粘膜より分泌する液を食して成長します。　全體馬の胃は秣でも豆でも雜作もなく消化す程の機能があるに、何故馬蠅の蛆が胃中で消化れぬかは當時の學問の進度ではまだ說明せません、何にせよ奇妙です。　かくて蛆が十分に成長すれば自然と胃を出て長き腸を通過ぎ馬糞に雜りて馬の體外に脫出で、地上に達すれば速に地中に蟄れて蛹となり、終に化して馬蠅となると申すことです。

ヌスビト蠅ノツ蠅のお話は煩雜しければ略してギン蠅のお話に移りましやう

下の圖の（ロ）はギン蠅の形狀を示し、（ハ）は其大さを示した圖です。　此蠅は蛆を產附るとて人に忌嫌はれますが、其蛆はギン蠅の秘藏子にて晴天首尾よく成長すればギン蠅第二世に成遂げます。　夫ゆゑ蠅も迂濶には卵を產附けません、魚なれば腮の裏か切開いた腹の裏牛肉なれば其置場所によりて暗い部に許り產附けます。　是は恐らく卵が人の眼に注つて取捨られぬ爲で御座りましやう。　圖中の（ホ）はギン蠅の卵で、卵の產み方は行儀惡く處々へ積重ね、其數は大約二百位です。置產後二十四時間以內に蛆が孵化れ、孵化れば忽ち肉を貪り始め遂に肉の內部に浸入ます。　此蛆は常に粘液を分泌して肉を濕らせ且肉の腐敗を促します。　諺によくさつたものにうじがわくと申しますが、凡そ世間に親がなしで出來る動物は無く、種がなくて生る植物はありません、蛆とても自然とわくものではありせん、又蛆は腐敗物に生ずと言ふよりは蛆が成長するゆえ物が腐ると申した方が穩當かも知れません。　其は兎も角もギン蠅の蛆は四五日中に十分成長して土中に隱れ、暫時の後栗皮茶の丸き蛹に變ります。　時節柄螢籠の中でギン蠅の卵を飼つて御覽なさい隨分御慰に成りましやう（ちと風變りの）。



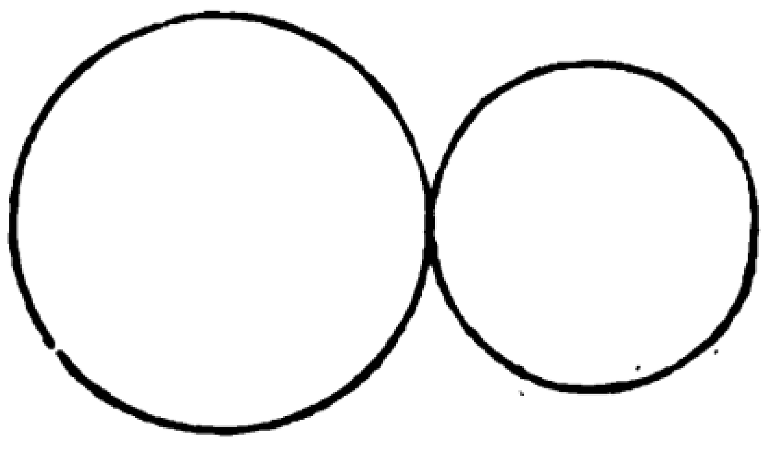
場處……舞踏會

若紳士（美しい令孃に向ひ）、「どうも酷く塵芥が起ちますね。　今みンな如彼に夢中になッて蹈ッて居ますから庭には誰も居りますまい。　こンな處に居ると肺病が出ます。御一途に散歩しましやう。　なに、月?、月は無くてもいゝぢやムいませんか」。
令孃（下を向いて聲を震はし）、「いゝえ、わたくしは…妾は不名譽を得るよりは肺病になる方がよろしうムいますよ」。

用器畫稽古の仕方（第十五號の續）。ひ、さ、述。

　圓形のこと。
一本の針を紙面に刺し短き絲の一端を針に結び、他の一端に鉛筆を結付け緊張めて鉛筆を運べバ曲つた線が畫けます。此線ハ直線ではなく方向が常に變つて居ます、箇樣の線を曲線と稱へます。　扨鉛筆の運びを續けて針の周圍を一周すれば一個の曲線形が畫けます。　此曲線形を圓形と云ひ、針の立つたる點を圓心と云ひ、其周圍を圓周と云ひ、叉絲の長さ即ち圓心より圓周までの距離を圓の半徑と稱へます。　されば圓形とは其中心より圓周に至る數直線の長さ悉く相等しき曲線形のことで御座ります。
　通例圓形を畫くには圓規叉はコムパスを用ひます、併し圓規は構造が粗ですから、正しき圓形を畫くにはコムパスの方が適當です。　コムパスは皆さんよく御存じなるべければ別に説明は致しません、併し鴉筆或は鉛筆を挿む方の一脚には人の膝の樣に關節があります故コムパスを用ふる時は必ず其關節を屈めて鉛筆鴉筆は何れも紙面に直角を爲す樣に爲るのが緊要です。　コムパスにて圓形を畫くには先づ紙に一直線を引き、今畫かんと思ふ圓の半徑の長を直線の上に記し、其一端にコムパスの鋼尖を立て、鉛筆を挿みたる一脚の開きを加減して直線の印に適合し、徐かにコムパスを回旋します。

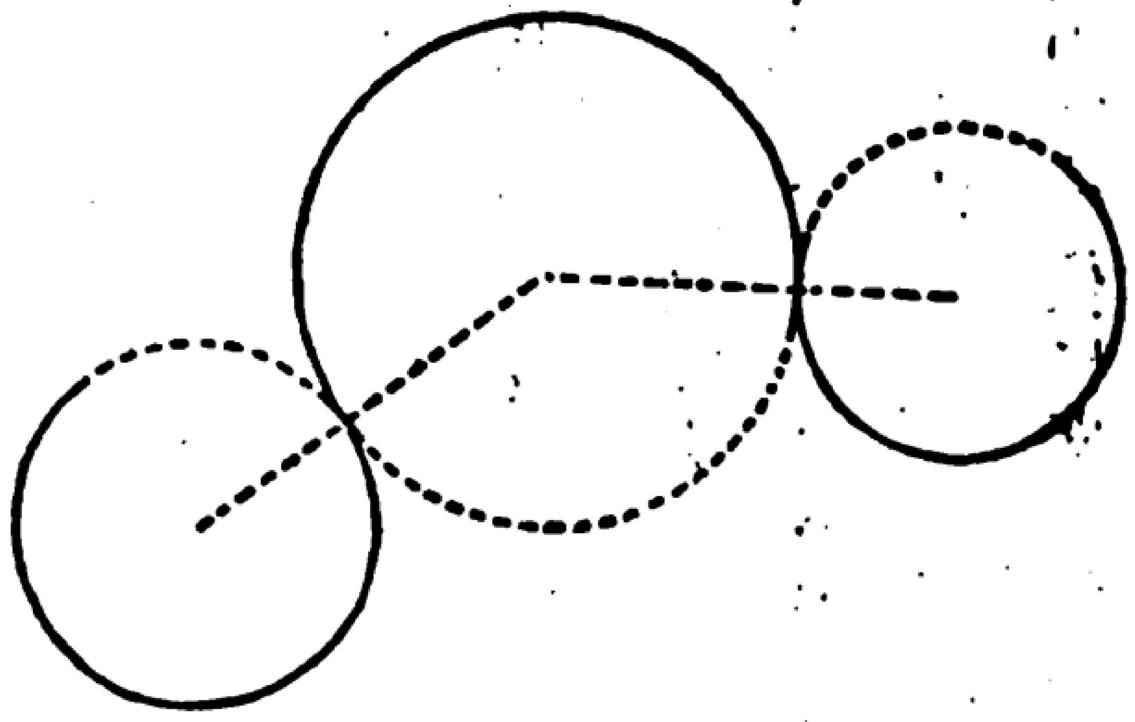
第一圖



第一圖の如く二個の圓形が一點に於て相觸れ圓周は互に交切ざるものを接圓と稱へます。
（十）此樣な接圓の畫法は何の絲瓜もない樣に思はれますが、これでも正確に間違なく畫くには少し工夫がなければいけません。
前には圓形の周圍を曲線だと申しましたが唯曲線とのみ申せば圓周ばかりではなく直線でない線は皆曲線です故、山路形雷紋形の樣に短き直線を異なる方向に結び合したのも曲線と申します。　それ故圓周の樣に全ければ圓になります線の一部を弧と稱へます。　直線を連接すれバ山路、雷紋、菱繼其外種々面白き紋形が出來ると同樣弧を連接すると優美な曲線形が出來ます。　尤も弧を連接して其接處に角の出來ぬ樣に爲るには、兩弧が接圓の一部に爲らなければなりません、精しく申せば兩弧の接處は、兩弧の圓心を貫接した一直線上になければなりません、此第二圖に就てお悟りなされ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

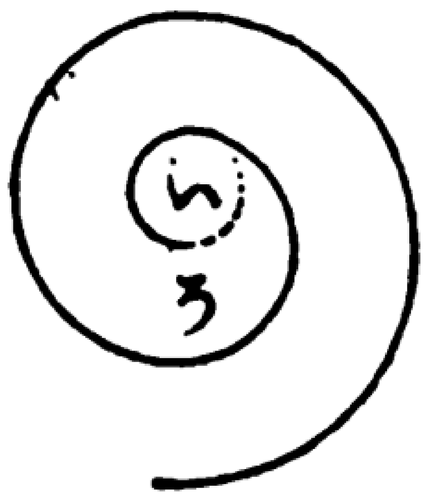
第二圖



（十一）上圖に示す法に依り弧を連接して唐草、紋形、又は器物等の圖を書て御覧なさい。

圓形内に圓心を貫て一直線を引く時は圓形を二個に等分します、而して各其一個を半圓形と云ひ、其弧を半圓周と云ひ、直線を圓徑（二個の半徑を一直線にて連接したるもの）と云ひ又半圓形の弦ともとなへます。

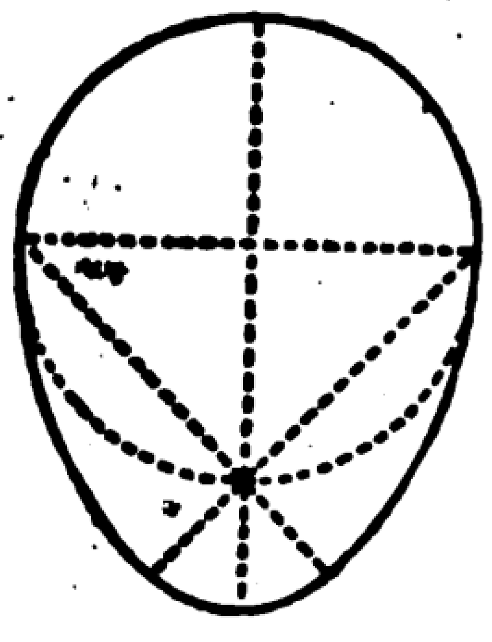
第三圖



第三圖は渦線です。渦線を書くには（い）と（ろ）に針を刺し適宜の絲を取り其一端を（い）針に結び、他の一端に鉛筆を結び、絲を緊張めて二針の周圍に鉛筆を回旋せば、鉛筆の痕跡は恰ど圖の如き渦線となります。即ち此渦線は半圓周の連接した模樣です。

（十二）前に書いた道理に由てコムパスのみを用ひて渦線を書いて御覧なさい。

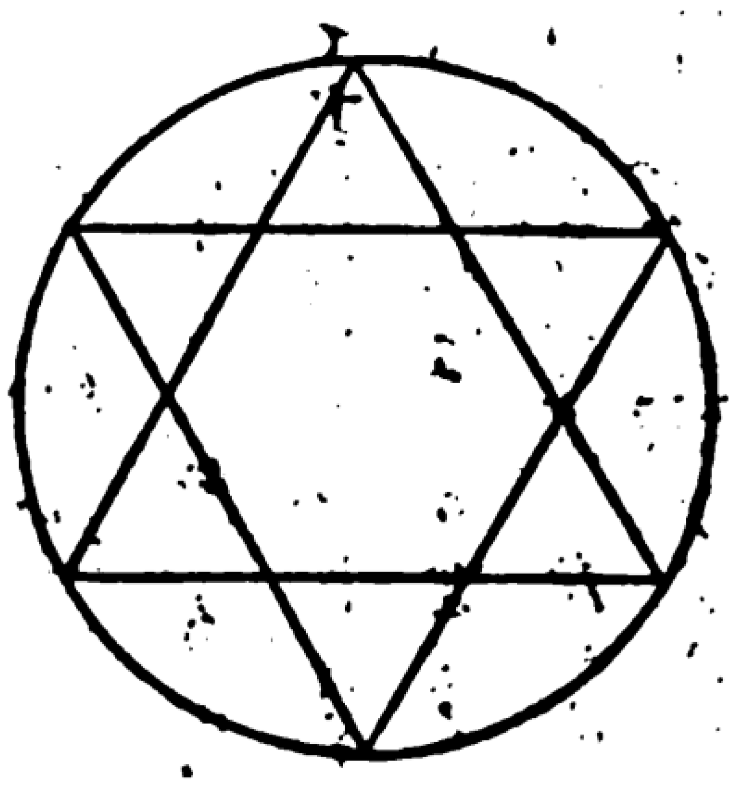
第四圖



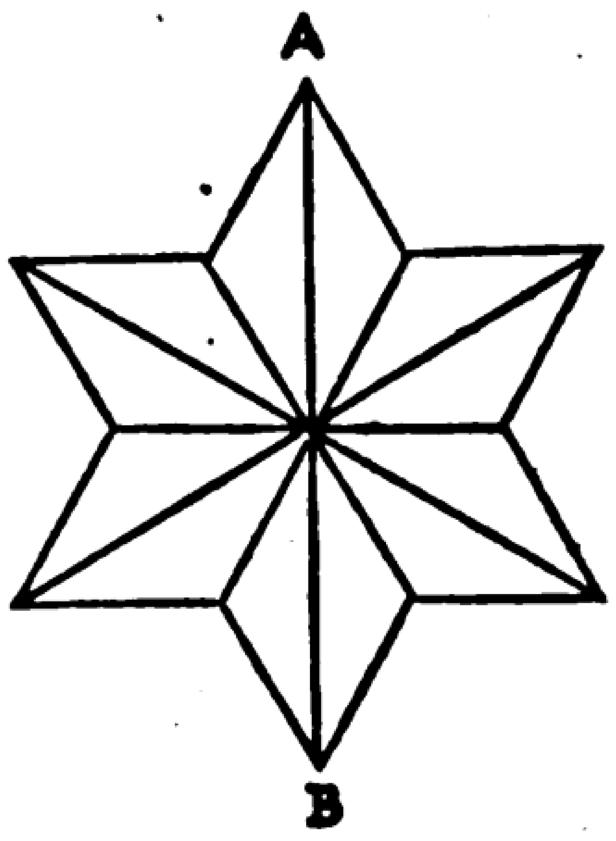
第四圖は卵形と稱ふる曲線形にて此形は四個の弧を連接して書くことが出來ます。

（十三）第四圖の卵形を書く法を工夫して御覧なさい。

第五圖



第六圖



（十四）前の卵形よりも稍細長きものを書く方法は如何。

一個の圓形の半徑を以て其圓周を六等分し得るは幾何學の確説です、言葉を換へて言ば一個の圓を書いたコムパスにて其圓周を等しき六個の弧に分るとが出來ます。一個の弧と其弧の兩端より圓心に引きたる二直線即ち二個の半徑よて作れる扇形を分圓と稱へます。

（十五）一個の圓形を六個の等しき分圓に割ることが出來ますか。

（十六）第五圖の樣な摸樣を正しく書くことが出來ますか。

（十七）第六圖は麻の葉形です、今(A)(B)の長さを三寸として此形を書くことが出來ますか。（以下次號）

賢い人をば道理で諭せ。其次のをば經驗で諭せ。全く痴愚なのをば要用で諭せ。

寄書

東髪に付きて（前號の續き）　久平老人述ぶ。

人間は最上の活物なり、最も活動の態に富まざるべからず、最も巧妙の氣に富まざるべからず。されば人間は他の動物

に比して最も狭き基底を與へられたり。而して人間が衣服を調製るに方りては、和服洋服何れも裾を引きて以て基底の安全なる態を取れり。次には頭部を装ひて巧妙活動の趣きを添へざるべからず。こゝに於て或はシャッポを被るあり、或は鬢たぼを出すあり。西洋服にコォセットを用ふるは猶日本人の細腰を喜ぶと異なるなし、而して彼れが締め付くる事の殊に甚たしきは何ぞや、服の基底甚ゞ廣きが故に甚ゞしく腰を締めて頭部を重く見せんが爲なり。

加ふるに西洋人は脳骨の形豐なれば引詰髪と雖も、猶おのづから圓柱のカピタルの趣ありて、シャッポを脱ぎたる時も左のみ醜からず。抑日本の婦人にして一たび鬢たぼを癈せば如何なるべき。ピラミッドこそ遠からめ、五重の塔は明治年代の婦人の雛形と成りぬべし。もし悲惨に非れば必無骨ならん。かくの如きチィサンは獨り今戸に於てこれを見んことを願ふなり。

さて日本人には日本髪最も適當する者と定めば、洋服の時も亦島田、唐人髷等を宜しとすることの攻撃起るべし。然れども目今洋服を着け給ふ貴婦人は特別上等の方々にして、日本婦人の最小部分のミ、滄溟の一滴のミ。洋服を着け給はゞおのづからシャッポに適ふ者を選び給へかし。猶强ひて問ひ給はゞ、洋服は御よし遊ばせと答ふる外無し、これしかしながら題を改めて申述ぶべき事なり。兎に角今日の束髪の小言は重に中等及び並上等の世界に向ひて訴ふる事と思召せ。

伏して請ふ淑女諸君、久平は舊弊の人間なれば辭禮の不作法を許させ給へ、然してその申す處美學とやらの趣意に叶ふものならば幸にこれを捨てさせ給ふな。たとへ束髪を結び給ふとも責めては鬢たぼ前髪の釣り合ひを忘れ給ふな。束髪にこれ等の注意を施したるは近來中等以下の世界にチラホラ見ゆる所にして久平が深く賛成する處なり。

先年束髪會とやらの出來し時日本流の結び髪即ちジレッタ結び、片兵庫、達磨返し等も亦束髪中に數へられき。然るに獨り西洋流の團子結びのみ流行し、彼の結び髪をば猶下品と云ひ、失敬と云ふ。これ抑何故ぞや、結び髪は從來下等社會にのみ行はれしを以てなり。誰れか知らん從來日本の美しき容は椎茸、やの字の摸型にも在らず、家風正しき舊家の深窓にも在らず、却て出格子の內、長火鉢の傍に在らんとは。

例を引くこと甚失禮なるに似たれども序なれば一言申すべき事あり。舊弊時代にありきてふオイランの道中は今年再興せりとかや。謂はゆる本シカケの時の髪飾りは、錦繪にても御覺ずらん、實に馬鹿ランウザンスぞかし。常人の頭上にこれを移さば、頭部基底に勝ちて、危險の感じ抑如何ぞや。然れどもオイランの裾、木履等の重厚なるに對しては此の如くにして始めて權衡を得るなり。もし改良家ありて此の髪飾りを節減したらんにはそれこそ忽ち五重の塔と成りぬべし。ただ理説の然るのみならず、彼れ等は皆曰ふ、髪飾りの重きは難儀なれど、頭輕ければ巨大なる木履を以て重厚なる裾を蹴ること能はずと。宜なるかな、定平均の態は活動の趣に乏しきことや。

抑久平が申す所、これを學問上に質して疑ひなく、これを

實地に照して誤る所無し。　久平も髪結ひの阿金殿に頼まれたるに非ず、下村山城大椽が囑託を受けたるに非ず、唯理の當然を述べて淑女諸君に忠義を立てんと欲するなり。　忠言は耳に逆ふ、定めて御氣に障る處も有らん。　久平は下等の人間なり、定めて失敬なる串戯も申したるならん。　去かしわる氣の無いと云ふ事は本誌の記者先生大人幸に言を添へて御詫言下さるべし。

去年の夏にやありけん或る洋人の説とて時事新報に束髪の小言を揭げたりき。　當時日本國の婦人中の婦人イヤ女丈夫と云はれ給ふ何かし女史は去る女學の雜誌に投書して直ちにこれを辨駁し給ひき。　その御趣意を摘めば、「凡そ物の美不美は流行不流行より生ず、故に束髪も流行盛なれば自から優美に見ゆべし」、との事なりき。　久平は昔堅氣の人間なれ共、貴婦人に向ひて議論する事は致すまじ。　併し女史は近頃小説の著作抔もありしとか聞けば、亦美學中の一人なり、美と流行と同一なりとの説は定めて御取消しに成りしならん。

チト一般に渉れる御話しなるが、近頃は道德やら風俗やら蘭家と漢家の爭ひ大分に矢釜しく相成りし樣に見受けらる。貴社抔は中々旨く胡麻かして居らるゝ段先以祝着に存ずる也。　この戰爭は遂に一統に歸すべき道行きにて、左のみ氣を揉むべきにもあらねど、成るべくは其の間に人の傷まぬ樣致したく、それ故久平等まで餘計な饒舌を致す、これを老翁心と申すとよ。　矢張り去年の事なりしが、花の中の花（尾上の櫻咲きけりカ）、學者中の學者とも云はれ給ふ去る大先生は去る演說塲にて去る學者の說を辨駁し給へるに左の如くなる趣意ありき。　曰く、此頃實着家とか云ふ者出でゝわが國人の洋化を妨ぐる事大に御世話あり。　何程勸めたりとて身に應せざる洋化は國人敢て爲ざるなり。　犬は善く食へども腹の破ける程には至らず、大概になれば、水でも飲み、尾でも振く行て仕舞ふ。　小兒の飮食も亦然り。　去れ他無し己れが分相應を踰ゆれば却て不愉快なるが故なり。　されば國人の洋化も過度なるを恐るゝの必要なし。　是れを自保律と申す云々。　久平は法律だの犬法だの善くは知らねど、先年田舍にて學校の敎師殿が何猿氏とやらの敎育論を演說せられし時、矢張り其の樣なる事を申されたりき。　小兒は自分の身躰相應、運動相應、成長相應に食へば止む者なり、食事を扣へろ、扣へろと云ふには及ばずと云々。　その次に曰へらく、小兒が過食するは却て平日食物を束縛したる積鬱の反動ありとぞ。　久平思ふにこの心得甚肝腎なり。　大先生の御論善と雖、其一を示して其二を示し給へず、これを敎師殿の演說に比すれば親切と申し難し。　日本人殊に婦人の上に於て所謂積鬱なる者有りや無しや。　無しと仰せられば其れ迄の事なり。　衝動藥過度なれば昏睡の藥となり、防腐劑強きに過ぐれば腐蝕劑となる。　少量の大黄は下痢を止め、少量の亞砒酸は健强の効を呈す。　唯功能を說て分量に注意せざる者は學者にも非ず、醫者にも非ず。　寬大に云はゞデレ助のみ。

心の疵も顔の疵と全じく、年老いてます〳〵目に立つ。

姑と嫁

樂海散人飜案

惜めども花は散果て、春はいづかたへか行きけむ、霞と共に

立去りて後を止めず。　木々枝々には緑葉薄く濃く生茂りて萌黄匂の錦をつらね、垣の下には卯の花咲出で丶殘ンの雪かと疑はしむ。　昨夜のまゝに濡れたまゝまだ乾きもやらぬ敷石の上に山咲の花ふたつみつ落ち散り、旭日は嬉しさうな顔付して椽側から座敷の中へ伺込む。　座敷の裡には一人の美人、火鉢の側に座を占め、愛々しき赤子を懐き、庭をながめたり、火鉢の上の手紙を見たり、物あんじがほ、

「あゝいゝ御天氣になつたあと。　今朝届いた此手紙で思出したが、お鶴の嫁入した上野さんにはたしかお姉エさんと御妹ごがあつて家内もよく治まるとかだけれど此手紙ぢやア阿鶴さんと御姉妹との中がよくなく、阿母さんに御相談なさつたら男といふものは總て一時は女を大事にするが、すこし程たつと、段々薄情になるもので、上野さんのやうな、洋行をした方は尚のこと、表では女を大事にするやうでも、心では馬鹿にして居るとかで…そして全體男に愛情を起させるのは譯は無いけれどもさて其愛情を永く保つて置くのは六かしい。何でも女は人の妻となつたら夫に大事がられなくッちやいけない。また夫の心を取るには一番いゝ手段は何でも夫のさめ無くてはあらぬといふ人になるのを心懸けるのが肝心だと毎々言つて御越しなさつたが本當にそれに違無いよ。　内なんぞでも御母さん一人が何から何まで爲さるから妾はあつても無くつてもいゝやうに爲つて…是ぢやア末始終飽られて仕舞ふかも知れないわ。　まア内の世話をして旦那の御氣に入るやうに爲やうけれど…第一どうしたらいゝだらうよかろうわ」。

抑此處は誰の家にして此婦人は誰ぞと尋ぬるに家の主は隅田靜雄とて世に聞ゆる一個の主人物案しなるは靜雄の妻にして梅子と呼ぶものなり。　去年の春頃此家に嫁入せし以來賢こき質にて夫姑に能く事へ今迄浪風も立たず、靜に睦ミくらしつゝ二ヶ月程先に赤子を生ミ、家内の幸福頂上に達したり。　さるからに元來靜雄が母と云ふは性質男まさりにて父存生の時より内政を治め息子の代となり梅子嫁入せしのちも續きて家内に指圖し、一切自身で繰廻し一も嫁の手にかけたることなければまだ世に馴れぬ女の常とて梅子はこれを不平に思ひし折から朋友の手紙を見し事なれば胸中の鬱勃はいやまさり、如何にせば夫の爲に必要の人となるべきものと坐に思起しつゝ、それより絶えず此事にのみ胸を焦し、姑の爲すこと一々氣に入らず。　されど夫は母の言葉にのみ從ひて妻はあつてもなきが如し。

梅子は今迄一度も臺所などへは出でしことなかりしに、是より食事の世話などせんと臺所へ出で、姑の心に反對の事のみ撰みて下女に云ひ付るに唯だ困るは下女の阿三なり。姑が右と言へば嫁は左だと云ひ、孰れに從つて能きや困まり切ると隣の下女へ度々の泣言、些細のことに嫁と姑は喧しく言爭ひ、果は是非を正さんと靜雄の許に來れど、一人は母、一人は妻、恩と愛との重荷は孰れを輕しと云ふを得ず唯雙方を程よく慰むるのみ。

日々食事の獻立に兩婦は各別の好を爲し、いづれにせんと靜雄に尋ぬれば「兩方共に」と答へて孰れの方にも團扇を擧げず。　初めの中こそ善けれ、一度に二種づゝの食事は胃に害を爲せばとても長くは行はれず、其後は早く下女に命じたる

方を其日の食とせんと定めたり。されば嫁ハ母の先を越さんとて夜も未だ明けきらぬに下女を起し、好みの獻立を言ひ付け、獨り喜ぶこと三日ばかり。姑も早くも之を知て四日目ハ前夜より明日の獻立を下女に渡し置き、素知らぬ顔して居れバ、嫁も又々夜明方拔足差足して姑の先を越したりと笑みつゝ、下女の處へ來れバ阿三は之を見て

「今日のものハもう極まりました」

さも心地よさと言ふ顔付。其筈此下女ハ古く此家に傭はれて大の姑贔負

嫁「オヤ大層はやいこと。そしてお母さんも何を御言ひ付なさつたの」。

「へイ、朝ハ御汁に玉子、御晝ハ御菜魚に晩ハ蓮根と鳥で御在います」。

「オヤ、丸で田舍の御料理だね」。

「でも旦那さまのお口に適ひますから夫で宜しふ御在ましやう一體旦那樣ハ西洋料理ハあまり御好きでございません」。

云れて梅子もハッと思ひ、夫の居間へ走來り、此事の實否を聞かんと問ひかけたり。

（未完）

●貴婦人會　去月二十二日午后二時より蜂須賀侯爵青木子爵の兩夫人が幹事となり赤十字社に於て貴婦人會を開かれたり當日は帝國大學御雇教師スクリッバ氏が出席ありて婦人衛生の演說をなし來會の貴婦人令孃六十餘名ありしといふ。

●女子職業學校　曩本紙上に報道せし如く同校ハ其生徒に專ら自營の道を授くるの趣意なるが其圖畫科の生徒ハ近頃織物の模樣畫に熟したるを以て小石川柳町に機殿を設けむさて高貴の御用向を承ハる小林機造氏と特約を結び生徒の下畫を以て其織物に上すより又其他陶器畫などにも追々熟練の生徒を出し諸府縣下の陶工と聯絡を通ずるに至るべしと聞く。

●東京慈惠醫院　にては看護婦教育所を置き看護婦を養生さるゝが此度年齡廿五歲以上卅歲以下の獨身者十二名を募集さる由。

●興風女學校　神田駿河臺なる同校は宗教に關せず純粹の教育主義を以て女生徒を養育さるゝ由。

●女子の教育法　横濱女學校の教師島田好子には英國バッサル女學校へ我國婦人の古來よりの教育法及風俗を調べて贈りたる由は曾て聞しが此度同校より謝狀を送り越され我國古來の風俗を痛く賞賛されたる由。

●我樂多文庫　紅葉山人思案外史美妙齋主人などが主幹となり去る五月廿五日我樂多文庫てふ文學雜誌を發兌したりしが中々の好評にて今も再版に着手したり。此道を志す人は一部を買ふて我おもしろの愉快をわかちたまへ。

●上等オルガン　今度神田區南神保町の築舘薪屋にても上等オルガンを仕入れ、精々廉價にて賣捌く由。

●醫科大學の產科　醫科大學にては產科に關する病人あれば何時たりとも其求めに應じて病家へ出向き其入費は一切同大學にて支辨せられ一錢たりとも病家に請求せられざるは曾て諸新聞に廣告されたる處なり。在京の產婦諸君よ稀代にて天下の名醫の診察治療を而も病床にありて得らるゝとはかほど名利に適ひたることはあらざるべし。抑も同大學にて斯る面倒を敢てせらるゝ原因は同科の學生の實地治療の爲め一は產婦と產婆の間には一種の弊害あるを以て之を矯正し產婦をして不幸の死を遂ぐる事なからしめん爲めなりと云ふ。元來產の事たる人の皆な秘密にする所にして側に付き添ふて介抱するものとては產婆と僅少の婦人に過ぎず、左れば產婦の賴みとするものは唯た產婆あるのみなれば產婦は一圖に產婆を賴みとするより產婆の威勢ハ中々強く殊に婦人同士の事とて產婆は巧に他の婦人を籠絡し果ては如何に難產たりとも己れの一手にて仕遂げて己れの名譽となさんとして遂には產婦のみか腹の内なる子供まで諸共に不幸なる最後を遂げしむるの長

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れあるを以て殊更らに斯る手數を取らるゝなりと尤も醫學生徒の同行は産婦の事なれば實地の研究旁々保助人として二人までを限りと爲しある由なり。

●英國の女醫者　前號のいらつめに米國女醫者の事を記せしが英國には女子醫學校の數三あり其生徒の數は百名計にて六十名は巳に卒業の上開業し居るといふ。讀者或は其數の少なきに驚くべけれども英國にして女醫者のかく驚くべき少數なるハ蓋し女子の醫學に志せしは近頃のとにて從來醫術は男子の專占なりしが故なり獨逸にては古風今尚ほ存して女子の醫者となるを禁する程なれば其進歩の遲きは勿論なり。婦人患者には女醫者を適當とする事は明なるとなれば後來醫術ハ必女子職業の一となるべく殊に女子の性質に且高尚なる業なれば余輩一世の淑女よ望む早く此業を修めて社會に於る地位を高められんとを又世の女子の爲に盡力せらるゝ君に望む他事のお世話と共に女子醫學校設立を御盡力あらんとを。

●御窓掛の模樣　京都織物會社にて目下製造中なる皇居の御窓掛は白色の毛繻地に金絲を交へ桐に鳳凰抔の模樣を織出し渾て古風に從ひたるものゝよし。

●清帝大婚の費用　近々北京にて擧行せらるゝ清國皇帝大婚の費用は七百萬圓程の計算の由。

●富山婦人交際會　昨年七月小學校女敎員方の發企にて富山婦人交際會なるものを創立せられ當時會員の多分ハ小學校女敎員なりしが爾後每月一回常集會を開らき目下會員は追々增加し從來の規約にては不完全なりしを以て去四月規約を改め一層の隆盛を企圖せる由同會々員淺尾榮氏より報道せらる。

●女生徒の自炊　千葉縣師範學校女子部に於てハ此程より生徒三十名を數組に分ち一週每に輪次交代して自ら炊事を辨せしむる由にて既に之に關する概則十箇條を設けしも實施の上果して便益と認むる時は男生徒にも之を施行し然る後更に完全なる規則を確定せる見込なりといふ。

●高知女學校　耶蘇信徒の發企にて一の女學校を設立し女子に必要なる學課を敎授せる由にて去月廿四日開校せりと。

●高田女學校　越後高田にてハ女學校を設け普通の學科及び家事經濟等女子に必要の學を敎授し卒業期限ハ四年なりと。

●育英高等小學校　大坂南區なる同校にてハ育英會なるものを設け男女の兩部に分ち女子部にてハ婦人の風俗矯正を目的とする由。

●伊賀上野婦人會　同地高等小學校の敎員諸氏ハ每月婦人會を開らき家政、育兒、衞生等を講せらる由。

●藤岡婦人敎育會　上州藤岡の佛敎信徒發企にて婦人敎育會を開らき茶湯、編物、女禮等を練習せり尤も佛敎信者にあらざれば入會を許さゞる由なるが近頃の御婦人にハチト御偏頗ならずや。

●同文社　仙臺女子敎育の目的にて設立せられたりし同文社ハ是まで理化、經濟、修身等を敎授し來りしが今度和文、數學、裁縫等を加へ一層高等の敎育を授くる由。

いらつめ批評の批評

女學雜誌の寄書内に本鄕W8生といふ人の名でいらつめの「みなれ棹」の評が設してありました。W、8、生といふから西洋人でしやう、でもからいらつめ記者の文章の意味がわからなかつたのでしやう。

「オッチナー」でもそれ相應に「オッチナー」たる丈の鑑識のあるとの御説、それハ「オッチナー」を成す各原子が「オッチナー」で無く各原子は完全の「ピユーナー」である上で、はじめて言へる丈の論です。けれど「みなれ棹」……へイ言ふだけ野暮でも……各原子か「ピユーナー」を得て居ますか、モシ、「理解力の不足なる彼れ批評者」……モシ。

跡はその内に出るとの事ゆゑ其時に讓りませう。左樣なら

●普通敎育新聞　前通信敎育新聞といひし頃より江湖の喝采ありし仝新聞は今度更に普通と改め、いよ〳〵一層精良の物となれり。殊に紫雲樓主人の作に係る「露

の水にても小蛇は一寸変身しき物、たとへば極めて清浄なるは八九歳の處女さいふ体なり。

餘興

新題

なぞ

一、根は上にあり。冬ありて夏なし。

二、住處は岩窟の中。動物は之に因つて胃の勞を省く。植物は之に因つて身を飾る。鳥も之をば持つ。されど鳥より之を取去れば後には一個の音のみ殘る。虫の中にも此物あり。されど其虫より之を取去れば後には一滴の血のみ殘る。

三、木實二種。二つならべて上下より之を見るも相全じ。

四、身は之を得て貴き家となり、戸は之を得て禽類の棲處となる。橋は之を得て木立となり、巫女は之を得て賑はしき處となる

右四題とも御皆當の方へはいらつめ第十三第十四の兩號をさしあげます

第十一號餘興の答

第一　燒コゲなどより出來る衣服等の穴。　第二　靴底の釘。
第三　人形。　第四　眼。

右の謎を解き本社へ御回答ありたる數は七十二通にて實以て難有謝んで御禮を申し升。御答には色々の御工風がありまして特に第二を船頭とは至極面白くまた第四を弗と解かれたる方が澤山ムいますが(此身)と云ふ文字を去りて弗は弓の中に横み、弗は二子で中もよいでは意味はムりますまい。然し此は實に感服の御答がムります。

第一句弓の中に横むものは(矢)、第二句二子よして中よきものは(口)、第三句此身なければ世間の暗なは(日)、矢と口と日とを集めれば(智)となる智なければ(第四句)美術なし

右の答は至極面白うございますが(此身)と云ふ二字が四句共同じでありませんからこれ式どうもいけません。

二問以上解當者

第一　茨城中村冬子　神田土屋露子　麹町桃井　神田松井花子　本郷寒鐵居士　熊本岩田春子　京都嵐香女史

第二　茨城中村冬子　熊本岩田春子

第三　茨城中村冬子　熊本岩田春子　神田土屋露子　麹町桃井　神田松井花子　麹町那須か祢　淺草小宅ゆき子　本郷寒鐵居士　京都嵐香女史　神田吉田よし子　信濃三浦巽　茨城古谷野庄次郎

第四　茨城中村冬子　淺草小宅ゆき子　神田土屋露子　麹町那須か祢子　神田吉田よし子　同松井花子　熊本岩田春子　信濃三浦巽　茨城古谷野庄次郎

●通信問答

秀子娘へ　靴を永く持たせる法はあまり靴墨を用ゐぬ方がよろしく、用ゐても二週間に一度ほど牛か豚の油を塗り、雨などで濡れた時には水で洗ッて油を塗り、日に乾すのです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家から小な管にて悪水や大小便を流し込み。それから大管の中を流れて海か廣い畑に流れ込む仕掛です。 此仕掛を實施してからはロンドンでも獨逸のミユンヒエンでもダンチッヒでも傳染病が非常に減りました。

屎尿の片付方 兩便の片付方は大別すれば二通りあります、一はカナリザーチオン即設管法で今一はアブフール即運搬法です。 運搬法といふは現在我邦に行はるゝ片付方で費用の入らぬ方法ですが設管法といふ西洋の都府で行はるゝ方法は中々容易ならぬ入費を要します。併しながら大都會になりますと設管法の方却て廉く付きます何故なれば大都會ほど下肥の掃除に困りますから錢を出さなければ掃除の爲人が厶いません。 そこで大都會になると此運搬の爲に非常に多額の金を費します。 その上衛生上より申しますれば運搬法は不完全極るものです大抵運搬法の行はるゝは未開の國に多く文明國では必ず設管法を用ゐて居ります。 我國でも運搬法だけ行はるゝ間はまだ〳〵文明國など、誇れません。

學者によりては運搬法と設管法と同時に行ふべしといふ説の人もありますこれは下水は管を通して排除をなし兩便は運搬すべしといふのです。けれども衛生學上より申しますれは下水も兩便も一所に管に流し込むのが最良法です其譯は追々述べましやう。

運搬法の詳説 我國便所の不完全なるとは飲料水の事をお話しいたしましたときにも申しました通り溜は四斗樽などを用ゐますから直と腐朽ちて糞汁を漏します。 西洋では溜の周圍はセメントで固めますが是でも功能はありません。 何故なればば兩便が永く溜りますればセメントが溶けますから中々安心が出來ません。 セメントでさへこの通りですからチーヤ（黒漆喰）などは尚更です。 ウオルヒユーゲル氏は溜の周圍をセメントにて十分に塗り固め素人考では大丈夫と思へる程に拵へ置き之を用ゐたる後穴を穿ち溜の下にまで達せしめて土を掘り取り之を試驗しましたが其中に糞尿の中より外にあるまじきものが混りて居りました。 これで如何にセメントで固めても便水の漏れるとは爭はれません。 何故便水の漏るのが恐ろしいかと申しますと之が井水に混りますからかやうな井水を飲むは便水を飲むと異つたとはありません。 ですから衛生上より申しますれば運搬法は到底用ゐてならぬとか分りました。 運搬法の中に今一法あります。 これは溜の代に燒物の器を置きまだ一杯にならぬ中に取替へるのです。 是は前の法に比ぶれば少しは勝りて居ります。

設管法の詳説 リールヌール氏の設管法は現に和蘭に行はれをりますが大金の掛る方法で且機械仕掛ですから時々損所が出來ます。 此法は鐵管を道路に伏せて家々の糞汁を集め十字街にある溜所を拵へ蒸氣仕掛にて之を汲取る方法です。 是でも尚缺點があります。 最良の方法は家々の便所より小管を以て糞尿を往來に通したる管に水を以て流しこみ往來の管は又大管に通し遂に一大管に流し込みて其末は市外數里の處に送りて消毒するのです。 此方法でなければ到底衛生法の普及を望むとが出來ません。 獨逸の都伯林に於て最初に此方法を計畫し時人口七十五万人ありしが警視總監の調

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に家々より毎週一回運搬するとして一年間に雨便掃除の爲に要する入費百五十万ターレル以上でありました。前にも述べました通り毎人一口に費す水の量ハ澆水洗濯等に使ひます水を算用いたしますと二石ッ、要しますいくら少く積つても六升宛ハ是非なくてハなりません今管を設けて雨便と此惡水を同時に流込みますと雨便ハ僅に水量の百分一に當りますから雨便を掃除する爲に此惡水の掃除も同時に出來丁度百分一を流す費用を以て同時に百分の九十九を流しますゆゑ設管法を行ひますときハ運搬法よりは非常に廉く付きます。衞生家の中には此設管法を用ゐても其管の中にハ雨便と惡水バかり流るゝ故其の臭氣の漏るゝ時ハ腸チブス、コレラ等の病氣を起すならんと心配する人もありましやうが今日でハ其心配ハ無用です。此仕掛でハ一人便所に行くときハ直く水で洗ひ流し管にハ勾配を付けてありますから滯る氣遣ハムいません。之か爲に要する水ハ一人一日に一石一斗ッ、に積つてあります。

設管法の利益 設管法の利益ハ第一にあらゆる不潔物ハ此管にて掃除するとか出來ます其日に出來る丈の汚物ハ其日に掃除するとの出來る便利があります。第二に人の勞を省く事ハ非常なもので人間が少しも手を付けず水が掃除する仕掛になつてをりますから警察官に厄介を掛けるともなくなります。第三に此法が行ハれますれハ地面がよく乾きますから脚氣傷寒コレラ等の病氣が少くなります。管は一秒時間に三尺流るゝ丈の勾配を付けてありますからサッサと流れ去りまして地下に漏れる氣遣ハムいません。又管中にハ水を澤山流し込みますから隨分稀薄くなつてをります。惡水が地下に漏れませんから井水に惡水の混じるとがなくなります。現に此法を行つた當座にハ市中の井水の量が餘程減じたと申すとです是でも惡水が井水に混じるとが分ります。獨逸のハンブルヒ、ミュンヘンの二ヶ所で嘗此法を施し試驗をしました時に地面に惡水が混して居らぬとが確になりました。此法が行ハれますれハ流行病を根絶するとが出來ます現にロンドン府の如きハ十餘年以來流行病のないのを誇つてをります。ハンブルヒで調べましたに次の如き面白き結果を得ましたる千八百七十二年から千八百七十四年迄に此市中で設管法の十分行屆いたる處でハ腸チブスに罹るもの千人に付二人六分八厘ですが半分設けた處では三人二分となり全く此設なき處でハ五人の割合になつてをりました。

管の製法 設管法に用ゐる管ハ四種あります第一ハ家々の便所より往來の管に流し込む管にて之を家屋管と申し燒物鐵管又ハアスパルトを用ゐます。第二ハ往來に伏せ家々より來る小管を受ける管で往來管と名けます是は釉藥を施したる燒物又ハ石を用ゐます第三ハ往來管を受ける大管にして集合管と名け煉瓦を以て積上げます第四集合管を受くる一大管にして之を主管といひ其高は其中で人が立て歩行くとの出來る程で硬煉瓦及石を積上げセメントを以て塗り固めたもので恰穴藏の長いやうなものです。各管に臭氣の万一閊えるとが無いとも限りませんから十字街にハ氣抜を設けてあります。此氣抜にハ臭氣留の仕掛がしてありますから臭氣は氣抜より

漏れることはありません又管には處々に瓣を設け上から流るゝには差閊なく下から逆流することの出來ない仕掛になつてをります。　此方法は大金の掛ることは勿論のことでありますが出來た上では損ずる事の少ない方法で其利益は上に述べました通りで中々金で計ることの出來ない程です。

右の惡水放出の場所

是迄家々の小管より一大主管に集むる迄の手續を述べましたがさて主管の惡水便水は何處へ流し込むへきやと申すに誰も河か海かへ流して善いと思ひましやう。　昔は英國のロンドンでも市中の便水を悉くテムズ河に流し込みました此河は市中を流れて居りまして丁度東京で申さば墨陀河のやうなもので厶います。　處が大變な事が起りました今より三十年前即千八百五十八年の夏の事でありますがテムズの河岸では腐た卵のやうな臭氣がいたしまして此河を往來する船の船長水夫の中に病人が澤山出來ました。　何故に箇樣な事になつたかと申しますに主管より噴出しました便水惡水が河水に混し唯河水を不潔にせしのみか河水の中より硫化水素といふ瓦斯を出しまして空氣までが不潔になりました腐た卵のやうな臭は硫化水素の臭です。　此時博士ジョン、シモン氏は日々テムズ河に行きまして吟味をされたそうですが此毒の爲に中てられ病氣に罹つたものが二百人あつたと申すことです。　又佛蘭斯の巴黎府を流れますセイン河にも是と同樣の事がありました。　或說には水中に含まれ居る酸素瓦斯は便水の毒を消す効能があるから河中へ便水を流し込むも左程恐るゝに足らぬと申しますが成程河水は澄で清淨にもなりませうがそのときは不潔物は皆河底に沈澱んだのです。　又中には便水の河へ落込む前に不潔物と水とを漉分け水丈を河水に落す仕掛をしたこともあり又消毒劑を投た事もありますが何れも思はしき効能がありませんでした。　種々行つて見ましたが最後に思付たのは主管を市中を距る數里の遠方へ通し廣き田野の中に出來ひある溜の中に流し込み之を肥料に用ゐる事と致しました。　之を最初ロンドン府に行ひ衞生上申分がありませんから方々の都府でも大抵此方法に傚ひまして今日行はれて居るのは皆此方法です。

此設管法の病氣に關係のあることは屢申しましたが面白き調がありますからお話いたしますハンブルヒと申す都府に於て設管法のまだ出來上らぬ前千八百三十八年より千八百四十四年までの間に千人の患者の中四十九人迄は腸チブスでありました。　此法半行はれましたとき即千八百四十五年より千八百六十四年迄には千人の中二十一人に減じ全く出來上りて千八百六十五年より千八百七十年迄に千人に十八人に減じました。　ダンチヒ府に於ては千八百六十三年より千八百七十一年まで此設なき間は千人の患者の中腸チブス六百三十人ありましたが布設後即千八百七十二年より千八百七十九年迄には僅に二十七人までに減じました。

是まで述べました處で町村等の團結をなしたる社會の衞生を了りました是より一箇人各自の衞生に移りましやう。

住居の事。

家屋の健康に及ぼす影響

吾人が家を造つて住居をするは何故かといふに風雨を凌ぎ日光を遮ぎる爲であります。　世の開けぬ前は家の建方極めて粗末でありましたが上の目的だけは遂げて

居りました。　世の開くるに從ひ如何なる建築をすれば人の健康に益があるかといふ考が起り住居に付ての衛生學を講ずるヿとなりました。　衛生學より申さば多分の日光と多分の空氣の這入る家は最上の家です。　それでは壁も戸障子もなき家が最良の家のといふにさうでない。　そこで衛生學が六ヶ敷なります。　家の建方の不良は病氣の原因となります。第一瘰癧（頸の邊に腫物が出來常に膿を出し不潔な病です此病に罹るものは鼻は圓く唇厚き人に多くムいます）。　第二英國病（此病は今を去る凡二百五十年前即千六百年代に英國に非常に澤山流行ました爲に醫者が注目まして同國の醫師グリッソンなる者初て此病を調べて報告をしましたから此名があります此病は小兒の初めて齒の生へる頃に多き病です其容體は骨が軟くなり從て手足脊骨などの曲る病です。　或醫者は此病は日本にないと申しますが全く無くはありませんものと私は思ひますもし此病が日本にもあるものならば婦人達は殊に注意せねばならぬヿがあります此病は骨を軟かにするのですから婦人が此病に罹り骨盤を組立てをる骨が變狀を起しましたならば（分娩のとき安産が出來ず母子の命を危うするヿがあります）。　第三僂麻質斯（又痛風といふ此病は寒氣を辛抱せねばならぬ職業の人に多く起ります此病は療治を加ふれば必ず治りますがもし打捨て置ますと心臟病に變じます心臟病となるとモーなほりません）。　第四は肺病。　此等の病氣は家の建方の不良よりも來るものが多くムいます。　都府に於ては世が開け繁昌するに隨ひ地價が騰貴いたしますから平屋造が次第になくなり五階六階を造つて住むことになります。　西洋にて五六階の家は一家族の占むるのでなくて大抵多くの家族が住むもので我國の平長屋を縱にしたると同然です。　伯林府の調査で見ますと五階六階に住むものより一階二階に住むものに死者が少うムいます。　これは貧乏人が五六階に多く住む故でありますが又室の構造も多少係つてゐます。

家屋の道德に及ぼす影響　濕氣深く薄暗き家に住居いたしますと氣分が惡くなります。　氣分が惡くなりますと體に障るとは確でありますが唯是のみならず人の行爲にも關係があります。物爭を好み窃盗を働きなどする破落戸の素性を尋ねますと多くは薄暗き濕氣深き家に住居するものであります。　破落戸が左樣な家に住むので左樣な家に住むから破落戸になつたのでないといふ人がありましやうが必しも左樣でない本來惡氣のなき人にても薄暗き家に住みますと精神衰退症を起し氣分が惡くなり遂には不良を働くようになります。　佛國黎巴に於て職人の行状を調べたヿがありますが其住居する家の構造のよき程行状が善かつたと申すヿです。　それで家の建築の大切なるヿが分りましやう殊に家屋の建方が家庭教育に大切な關係がありますから此事に付ては一層の注意を要します。

敷地の撰び方　如何に建築に注意を加へましても家の敷地が惡しければ折角の注意も水泡となります。　そこで敷地を撰ぶヿの必要が起ります。　低き土地と濕氣多きゆゑ家を建つるにはよろしくありません。　十分な事を申さば岩の上か山の半腹に建てるのが衛生上最上のです。　けれどもかやうな事

は市中に住むものには望むべからざる事ですから前に述べ置きました沒管法の必要を感じます。 西洋にて衞生に心掛深き人は地下に漆喰の四壁を築きその上に家を建て又山の半腹に建てる家にはその家の上手の地中に漆喰の塀を築くと申すことです。 地下には水が流れて居りますから此壁にて敷地の下に水の來るを防ぎおく爲です。 かやうにすれば申分はございませんが中々金の掛ることでありますから細いことは兎も角も濕氣少き土地を撰ぶこと丈は肝要です。 之をするには土地を掘り反して吟味せねばなりませんがこれも容易いことでありませんから素人にも出來る試驗方を申しましやう。 何の事はない堀井の地面より水際までの深を見るのです若し水際が淺ければ其土地は必ず濕地です又深ければ乾燥の地に違ひありません。

衞生學上西洋造と日本造との比較

空氣の流通最よろしく日光を受くること最多きものが衞生上最上家屋ならば日本造程よきものはございますまい。 西洋造を御覽なさい箱に孔を穿けたやうなものですから日光を受くることは日本造よりも少うございます。 又西洋造は空氣の流通が少うございます素人考では空氣の流通は窓か戸ばかりで出來るものと思はれますがさうでない空氣は四方の壁を通して常に流通してをりますもし壁が空氣を通さぬものならば人は一日も家の内に住むことは出來ません。 壁は風を防ぎ靜に空氣を流通させる爲のものですからよく空氣を透すものほどよろしうございます。 西洋造の壁には多く煉瓦及石の類を用ゐ且非常に厚く造りますから日本造の壁よりも空氣を透すことは少うございます。 空氣をよく透さぬ壁は常に濕氣を含むものです煉瓦は殊に甚しく水氣を吸取り之を易くはきださぬもので日本の如き濕り勝の氣候には尚更良しくありません。 空氣は水よりも七百七十倍輕く且運動し易きものですから水の透れぬ處でもサッサと透ります今卵を水に入れ排氣鐘を掛け鐘内の空氣を拔き出しますと卵の殼からブツ／＼泡を出しますこれで空氣は卵の殼のやうな固いものでも透ることが分ります。 かやうに何物にも入込む性質がありますが物により大に難易がございます。 それで石或は煉瓦よりは土壁又は板壁の方空氣の流通よろし。 そこで成丈流通し易きものを撰ぶが肝要です。 板壁は最善く空氣を透しますが之にペンキを塗りますと又流通を惡しくいたします。 又木の中でも木理の粗と密とによりて違があります樫の類は松杉よりも流通あしく又生木は乾きたるものよりあしゝ。 かやうに比較しまするに日光と空氣の流通に付いては西洋造は日本造に及びません。 唯是ばかりでなく西洋造は同じ高さの木造に比べると住むには冬は寒く夏は熱うございます。 全體冬暖く感ずるは如何なる譯でしやう空氣は熱を導かぬ性質ありて温を保護するからです又夏涼いのは外より襲ひ來る熱を禦ぐからです。 然るに西洋壁は空氣を含むことが少うございますから冬は室内の暖氣を奪ひ夏は外間の熱氣を誘ひ入れますから西洋造に住むは裸體に鐵の鎧を着たと同樣です。 題外に渉りますが洋服も西洋造と同樣で冬は寒く夏は熱うございます是も同じ道理で衣服が皮膚に緊着いてゐますから體温の保護者となり外熱の防禦者となるべき空氣の居る場所が少いからです流行の細ズボンなどは最此

弊があります。　西洋家屋も實際冬寒く夏熱いものですから西洋でも是に御氣が附れまして壁の中ふ空氣の這入るべき餘地を與ふる爲二重壁を拵へる家もあります木造の家屋で二重壁を造れバ之よ越したるとハありません。　壁ハ空氣の止まるべき餘地あれバある程よいのですから空氣の入易き材木よて成丈厚く拵へるよ限ります。　又屋根も同樣ふてブリキ屋根より瓦屋根、瓦屋根よりカヤ葺（日本の農家）など冬ハ煖よ夏は涼うムいます。　かやうよ申しますと西洋造の方實際夏は涼いなど、主張る方もありますがそれは家の廣さ高さを餘所よした話で同じ廣さ同じ高さの家ならは私の申したとふ間違はムいません。　此事は私のどこ迄も主張致し度事ゆへ他日明細よ別よお話致し度存じます尤も我國ふて壁を塗るよ河底等の不潔の泥土を用ゐますのは甚だ甘心致しません。

濕りたる壁の害

濕りたる壁は空氣の透るを妨けますから壁は常よ乾いてゐなければなりません。　又濕りたる壁は溫氣を吸込みますから冬分は別して人體に障ります。　だから新しき家よ移轉をするおハ氣を付ねばなりません。　大抵壁は幾日經てば住居して宜しきやといふよそれハ時分よよりて遲速があります。　勿論夏分は早く乾き冬分は壁の中ふ含まれたる水か乾く前よ凍りますから中々急にハ乾きません。　壁に黑點の付いてをる間ハまだ乾いてをりません。　全體乾いてをるとか濕つてをるとかの區域は甚六ケ敷譯てすが壁土の中ふ含まるゝ水の目方壁土全量の百分の四位でもまだ濕つてをると衞生學上ではいひます。　乾いて居ると思つて移轉した後壁よ黑點の出るとがあります是は壁の中から浸出したのでなくて壁がまだ十分乾いてゐないため人の口及皮膚より出る水氣が壁よ付くのです。　もし止みかたき事情ありて壁の乾かぬ中よ移轉をしやうといふときよハ窓を半開けて家の内で火を焚きます。　何故かくするといふよ空氣か煖くなれバ多く水氣を引きます又窓を半開けておきますれバ煖で水氣を含んだる空氣ハ上の窓より外へ出で其空處を外より冷い乾いた空氣が來て補ひ此空氣がまた煖くなりて水氣を運び去ります。　又壁を早く乾かす便法も壁との間一二寸あらけて板を打付ても宜うムります。

まだ壁土から水の滴るやうな時分より移轉するものを常よ見受けますが實に危いとでムいます。　濕つてゐる壁の側ふ結付いて寐ますと壁の側よ向いて居た半身だけハ冷くなります是ハ濕つて居る壁が人體の溫を奪ふからです。　かやうよ半身が溫で半身が冷い時分よ風を引くのです。　誰でも風引位と無頓着よ思つてをりますが風ほど恐しいものハムいません。　よい機會ですから少し風のお話をいたしましやう。

俗にも風邪と申しますが其實風邪病といふ病はないのです。俗ふ風邪と申すのは凡四種の病をいふのです感冒（俗ふ云風引）僂麻質斯、氣管支病と腸加答兒、です。　鼻垂風と世間で申しますのハ氣分惡く頭痛か滲々と致しまして其病氣の治りかけふ鼻涕の出るのです。　又腎臟病（其容體ハ顔手足何處となく水腫となり傷口でもあれバ水を漏し隨分厭ふへく恐るべき病です）瘰癧、肺病、クローゼ（婦人病ふして顔色の青ざめたる病なり）等の難病ハ皆假初の風引を等閑ふ打置くより起るとが多うムいます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女新聞○　女子敎育の議論熾なるにつれて種々の婦人專門雜誌出づる中に又も女新聞といへる現はれたり「うちだ、よしかづ」氏の祝詞はあまり奇に走りたるが如くなれども其餘跡見花蹊氏の祝詞といひ記事といひ小說といひいづれも尋常の物にあらず

社告

次號の家政欄には百日咳療治法、文藝美術欄には孤芳令娘の作に係る新作唱歌及び文學大家平生會話の巧拙といふ最も面白く有益なる新事を掲載いたします。

廣告

我樂多文庫　一冊三セン○十部前金廿八錢○二十部前金五十六錢○郵稅一錢づゝ

面白うムいますせ我樂多文庫。ちつとは諸新聞の中からの惡評を得やうと思つて探しましたが、どうもみンな褒めて居るばかりですから仕樣が有りません。第一號にある小說は漣山人の五月鯉(言文一致體)、紅葉山人の京人形(折衷體)、美妙齋主人の情詩人。

發行所　東京麴町區飯田町五丁目廿三番地　硯友社

れるがん●御化粧下花の雪、御匂袋花の陰、御水白粉花の雪、御白粉薄化粧

天下無類の最上品です、どれも、これも

東京神田區南神保町　藥舖　れきなや

每土曜發行　女學雜誌　第百十三號(明日發兌)目次

●社說　男女交際論(第二)　自然に順ふ事

●論說　衛生と行政の關係(宇川盛三郞君)

●(批評)　婦人に關する新語と經濟雜誌○女學解と經濟雜誌及び輿論新誌

●佳傳　モニカの傳

●叢話　郞の跛なるを知らず○ソクラットの妻○孟氏其妻の死去を愛兒に報ずるの文○孔子馬を問はず○詠歌總論(佐々木眞綱)○指環考(久松定弘)○佳人の歎の英詩(某女生)○愛不懼の圖

●寄書　いらつめの批評の評○岩城鶴子の吊文歌

東京日吉町　女學雜誌社　一冊五錢府内無稅

普通教育新聞

通俗教育新聞改題　ふりがな繪いり　三八の日發行

五月十八日發行第六十號目次

○社説●改題の主意○雜報●皇后宮陛下の御仁惠●學資金下賜●中川元氏●濱尾東京美術學校長の諭告●日本歴史の撿閲●新募の海軍生徒●各官立學校の生徒募集●廣島私立幼稚園●高知縣下の學校●北海道松前郡學事概況●學生游泳の練習●大日本敎育會第五回總會●大學通俗講談會●體育會●紙腔琴●體操器械●通俗敎育新聞改題の要旨●明宮殿下の御用●新刊書冊●敎育小説氏よりそだち器の水(書入)○父兄敎師の爲め●通俗心理叢談(學習院助敎授石井要講述)●家庭敎育の要旨を論ず(敎育時論記者村尾愷太郎稿)●社會の風化を論ず(埼玉縣尋常師範學校敎諭森愼一郎)○子弟生徒の爲め●地文學講議(學習院助敎授石井素眞稿)●學問のすゝめ(裁縫敎師山田なか子)●修學旅行記(福島縣伊達郡小島小學校生徒)●小學生徒の共同貯蓄○廣告五十四件

本紙代金一部金二錢●十部金十九錢●二十部金三十七錢

●郵税一部金一錢●一切前金

見本入用の方には無代呈上す

東京京橋區築地一丁目八番地

通俗敎育社改

普通教育社

雅友叢誌

毎月十五日發行上等白紙摺美本

定價壹部前金五錢十部全四拾五錢郵税壹錢郵券代用壹割増但壹錢券

本誌記載ノ種目ハ○和歌○狂歌○正詩○狂詩○發句○狂體發句○情歌○川柳○新題考物等ニテ毎號美畫ヲ挿入シ雅致ト粹ト意氣ト滑稽トヲ集メタル好雜誌ナレバ全國ノ雅客粹士ヨ乞フ一讀シテ其妙味ヲ知リ給ヘ

但會員ニハ壹部四錢ヲ以テ頒ツ會則ヲ望マル諸彥ハ郵券二錢ヲ投セヨ

大坂東區瓦町四丁目四十六番地

日本雅人懇親會事務所

雅友叢誌社

貴女の友

●毎月五日十五日二十五日發行●壹部金八錢●六部前金四十六錢●十二部前金九十錢●郵税壹部壹錢ツヽ

凡そ婦人たる者一たびは必ず人の妻となり次には人の母となり又一家の主婦とならざる可らず是自然に具ろ女の役目なり之を女の本分といひ能く此の本分を盡すものを貴女といふ本誌は即貴女たる方々の朝に夕に伴ひ給ふべき友達にとて發行するもの也其中に書き列れたる事項をば貴女の友といふを始として家政保育學藝叢談論説新報の七欄に分ち妻女母親主婦等の心得給ふべき家事經濟法兒女保育法衛生法婦人禮法文學美術及び通俗理科等の事項を解し易く簡短に説明し且は婦人世界に利益ある大家の論説を書き集め又其快樂ともなり摸範ともなるべき最面白き寓意を含みたる小説に挿畫を加へて記載したりされば此等の事項をただに落なく心得給はんには文明の世の貴女として愉快に此廣き世界を往來して其生涯を送り尚且子々孫々の榮華をも遂させ給はんと疑ひあるべからず殊に時々附錄として家庭敎育の種ともなるべき美しき圖書を刷行せり世の學問に心を寄せ給ふ貴女は更なり一家を經營し兒女養育の役目を負ひ給ふ貴夫人方は必ず邊り近く置かせて須臾も離させ給ふまじき好雜誌なり

東京日本橋區本町二丁目三番地

東京教育社

學海之指針第拾壹號

五月廿五日發行

肖像 哲學大博士カント氏　**論説** 學術奬勵會杉浦重剛君○智育及道德ドクトル、ヘーリング君○スピンネル君○進化トハ何ゾヤ山縣悌三郎君○獨逸帝デルブリユッチ君　**雜錄** カント氏略傳○狐憑患者の記事峯是三郎君○女子の手藝ルイゼ夫人　**彙報** 生徒の鼻ニ關る新報○哲學士メンテルスゾンの婚姻○博士タオプマン氏の滑稽○新刊書概評幷廣告

日本橋區村松町七番地

學海指針社

同胞交際新聞大改良

第一號及ビ第二號悉皆賣切○第六號去ル五月一日發行●第七號ヨリ紙幅ノ擴張大改良ヲ施シ追々ニ一ノ政治新聞ト爲スノ計畫中ニテ準備ノ整頓スルニ隨ヒ順次ニ發行ノ度數ヲ増刊スベシ●當分毎月二回發兌●定價一部郵税共金五錢●何部ニテモ割引セズ●送金ハ郵便小爲替ニ限ルベシト雖モ實際不便ノ地ハ郵券代用一部ニ付一錢切手ハ一錢増

シ二錢切手ハ二錢增シノヿ●見本郵券一錢形六枚●社員ハ入社金ヲ要セズ●特別社員ハ一度限前金一圓ヲ送レバ支社長トナシ毎號無代價無遞送料ニテ進呈ス●廣告料一行金三錢

神戸 **同胞交際新聞社**

Ⓨ **吉岡書籍店廣告**

弊店今般いらつめ賣捌仕候間續々御注文被下度尙ホ地方よも賣捌御望の方ハ至急御申越被下度候

●今般弊店に於て學校用おるがん製造發賣仕候尤も丈夫廉價を主とし特に一ヶ年の保險相附申候代價ハ

おるがん

小形上等　二十三圓
小形并　十八圓

其他高價ノモノハ續々製造仕候

●當店ハ東洋英和女學校明治女學校習女舘其他諸女學校へ書籍上納仕居從て掛直等ハ一切不仕候間續々御注文被下度特に貴女方御用の書籍ハ悉皆賣捌申候

いらつめ●日本人○政論●國民の友●女學雜誌○法學協會雜誌●理學協會雜誌●THE STUDENT

發賣所 東京神田區南乘物町三番地 Ⓨ **吉岡書籍店**

● **教學論集** 六月五日發行 五拾四編より **大改良** 廣告

本集儀今般大に爲す所あらんを期し眞宗本派壯年有爲の士のみの結合に成る所の「勝友會」と合體して紙數を増加し宗教ハ勿論、政治、文學、法律、經濟、其他苟も敎家の知るを要すべき事故ハ細大漏さず時事、評論、雜報、海外新事、等を掲載して日進月化の氣運と供に併進して我が大法の爲に盡す所あらんとす、江湖有志の諸彦幸に一層の愛顧を賜らんことを希ふ

●第五拾四編の目次●行誡上人の入寂(上人の遺簡、閻魔大王より來迎具申狀)(編者)○明治諸宗綱要(法相宗「續」)(吉谷覺壽)○興產の急務第九(干河岸貫一)○小塚原舊刑場追吊會演說(ボアソナード)●教學苑林●佛教字數○蝦夷語の法話○作文の南針○古來戰死の人數○世諺故事●雜錄●答或問(鳥尾得庵)○開祖遠忌雅兒祭詞(小林日昇)●詩三首○哲言九個●勝友會誌●慷慨の時代去りて希望の時代來れり○十字軍を論す●町村の公民●雜記●「プレトー」の傳○送井上圓了君洋行○教學論集の暗誦○不釣合の經濟●批評●日本人●雜報●市町村制○黑田總理大臣の宗旨如何○民力休養の說○辻文部次官の談話、外數件○本會規約、會員姓名、記事、報告

●右今般紙數を増加するも定價ハ元の通り●一册金八錢郵稅一錢○十二册(一ヶ年)分郵稅共九拾錢○半ヶ年分同五拾錢

發行所 東京芝公園第二十六號 **無外書房**

轉居

京橋區ヤザエモン町九

醫學士 竹中成憲

鐵筆將軍著述

● **明治之細君**

洋裝美本石版密畫入

定價金八拾錢　郵稅金貳拾錢

鐵筆將軍時事ヨ感ずる所あり最も細君方ヨ感ずる所あり公務の餘暇得意の鐵筆を揮て著ハされたる者乃ち此の小説をなす其文章の艶らかよして意匠の巧みなる特ヨ論ずる迄もなく細君方にして是を讀まば必らずや笑ふ者あらん泣く者あらん喜ぶ者あらん怒る者あらん實ヨ方今拔群の好稗史といふべし請ふ一本を購ふて其の眞味を知られよ

東京本郷元富士町二番地　書肆 **盛春堂關田倉吉**

館友募集廣告

風流韻事ニ志アル諸君郵券貳錢送致セバ直チニ館則ヲ呈スベシ

陸奥國弘前代官町 **華月館**

● 改良 **速記法** 自宅 **獨修生** 募集ス○無束修○學資一ヶ月卅錢○郵券二錢投セハ規則速呈○別ニ速成科ヲ設ク

● 東京下谷上野町一丁目十四番地 私立 **速記法學會**

いらつめ第十一號目次

社説。 結婚論。

小説。 空行く月（第二回）。

家政。 馬脾風療法＝小供を素直にする法＝人工の片輪＝急病療法＝あどけなき娘。

流行。 衣服羽織地＝ハンケチ＝香水＝靴＝淑女夜會服＝男子の洋服＝ぼたん＝烟草入＝烟管＝夏帽子。

化粧。 化粧薬えらみ方＝肌のキメを良くする法＝新製羽毛の蝶々簪。（密書入）

批評。 浮雲細評。

文藝美術。 音樂獨稽古＝新作唱歌＝世界第一芝居正本＝大した筋書。

雜纂。 縁組を占ふ奇法＝悪聲憂ふるに足らず＝蒔繪の名。

學藝。 蚊の話（密書入）。

寄書。 束髪詳論。

月報。 三十件。

餘興。 新作謎四＝御笑草二。

通信問答。

通俗衛生學講義。 醫學士竹中成憲氏述。

譜付唱歌。 花の雲。

○いらつめ代價 一冊金八錢 六冊（半年分）金四十五錢十二冊（壹ヶ年分）金八十錢府外毎號郵税一錢宛申受○毎月第二土曜日發兌

雜誌代ハ前金ニアラザレバ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラバ拂渡郵便局トアル所ニ本郷郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ本郷湯島天神町壹丁目五十九番地成美社ト御記入ノ事

○廣告料一行（五號文字二十七字詰）金五錢○十一行以上金四錢五厘○二十一行以上金四錢 但シ前金ノ事

いらつめ賣捌所

東京日本橋區新葭町 良明堂
同 神田區淡路町壹丁目 巖々堂
同 同 佐柄木町 東海堂
同 同 雉子町 團々社支店
同 同 今川橋傍 吉岡商店
同 日本橋區蠣売町壹丁目 信文堂
同 本郷區元富士町 盛春堂
同 同 春木町貳丁目 解明堂
大坂心齋橋備後町 岡島支店
堺熊野町 高山慶雲堂
名古屋本町貳丁目 石版舎
信州長野大門町 會眞社
陸中岩手肴町 華文舎

發行人兼印刷人 武田安之助
編輯人 榛葉彦三郎

發行所 成美社
東京本郷區湯島天神町壹丁目五拾九番地

（築地活版製造所印刷部刷行）